Systemwalker

FUJITSU

Systemwalker Centric Manager

12.0

Systemwalker Portal利用ガイド

J2X1-2380-01Z2(00)

Solaris™ オペレーティングシステム

まえがき

本書の目的

本書は、Systemwalker Portalの機能概要、導入方法および運用方法について説明します。

なお、本書は、Solaris版を対象としています。

本書の読者

本書は、Systemwalker Centric ManagerとSystemwalker Portalを使用して、運用管理業務を効率化したい方を対象としています。

本書をお読みになる前に、“Systemwalker Centric Manager 解説書”、および以下の製品のマニュアルをお読みになり、製品の概要を理解しておくことが必要です。

- Interstage Portalworks V6
- Interstage Application Server V6
- Systemwalker Operation Manager V12
- Systemwalker Service Quality Coordinator V12

本書の構成

本書は、1章～4章、および付録から構成されています。

第1章 概要

Systemwalker Portalの機能概要について説明します。

第2章 環境

Systemwalker Portalを使用する場合のシステム構成について説明します。

第3章 導入

Systemwalker Portalを導入する手順について説明します。

第4章 運用

Systemwalker Portalを運用する方法について説明します。

付録A Webページの追加

Systemwalker Portalの画面にWebページを追加する手順について説明します。

付録B エラーメッセージと対処方法

Systemwalker Portalの使用時に出力されるエラーメッセージと対処方法について説明します。

本書の読み方

コマンドで使用する記号について

コマンドで使用している記号について以下に説明します。

記述例

```
[PARA= {a |b |c |… }]
```

記号の意味

記 号	意 味
[ ]	この記号で囲まれた項目を省略できることを示します。
{ }	この記号で囲まれた項目の中から、どれか１つを選択することを示します。
―	省略可能記号“[ ]”内の項目をすべて省略したときの省略値が、下線で示された項目であることを示します。
|	この記号を区切りとして並べられた項目の中から、どれか１つを選択することを示します。
…	この記号の直前の項目を繰り返して指定できることを示します。

注意事項

本書では、Systemwalker Centric ManagerおよびSystemwalker Operation Managerのエディションで、Standard Editionを“SE”、Enterprise Editionを“EE”、およびGlobal Enterprise Editionを“GEE”と省略しています。Systemwalker Quality Coordinatorのエディションで、Standard Editionを“SE”、およびEnterprise Editionを“EE”と省略しています。各エディションを読み替えください。

略語表記について

- Microsoft® Windows Server™ 2003, Standard Edition、Microsoft® Windows Server™ 2003, Enterprise Edition、Microsoft® Windows Server™ 2003, Datacenter Edition および Microsoft® Windows Server™ 2003, Web Editionを“Windows Server 2003”と略しています。
- Microsoft® Windows® 2000 Professional operating system 、Microsoft® Windows® 2000 Server operating systemおよびMicrosoft® Windows® 2000 Advanced Server operating systemを“Windows 2000”と略しています。
- Microsoft® Windows NT® Server network operating system Version 4.0、Microsoft® Windows NT® Workstation operating system Version 4.0を“Windows NT”と略しています。
- Microsoft® Windows® 98 operating system, Microsoft® Windows® 98 Second Editionを“Windows 98”と略しています。
- Microsoft® Windows® Millennium Editionを“Windows Me”と略しています。
- Microsoft® Windows® XP ProfessionalおよびMicrosoft® Windows® XP Home Editionを“Windows XP”と略しています。
- Windows NT®、Windows® 2000およびWindows Server 2003上で動作する

Systemwalker Centric Managerを“Windows版 Systemwalker Centric Manager”または“Windows版”と略しています。

- Solaris™ オペレーティングシステム上で動作するSystemwalker Centric Managerを“Solaris版Systemwalker Centric Manager”または“Solaris版”と略しています。
- Solaris、Linux上で動作するSystemwalker Centric Managerを“UNIX版Systemwalker Centric Manager”、またはUNIX版と略しています。

輸出管理規制表記

当社ドキュメントには、外国為替および外国貿易管理法に基づく特定技術が含まれていることがあります。特定技術が含まれている場合は、当該ドキュメントを輸出または非居住者に提供するとき、同法に基づく許可が必要となります。

平成17年 4月

平成17年 4月 初 版

商標について

APC、APCロゴ、PowerChute、Smart-UPS その他のAPC製品名は、American Power Conversion Corpの商標および登録商標です。

Ethernetは、富士ゼロックス株式会社の登録商標です。

HP-UXは、米国Hewlett-Packard社の登録商標です。

MC/ServiceGuardは、Hewlett-Packard Companyの製品であり、著作権で保護されています。

Linuxは、Linus Torvalds氏の米国およびその他の国における登録商標あるいは商標です。

Microsoft、MS-DOS、Windows、Windows NT、Visual Basic、Windows Server、ActiveSyncは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

Oracle、Oracle8i、Oracle9iは、米国オラクルの登録商標です。

Red Hat、RPMおよびRed Hatをベースとしたすべての商標とロゴは、Red Hat, Inc.の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Sun、Sun Microsystems、サンのロゴマーク、Sun/Solaris/Java に関連するすべての商標およびロゴマークは、米国 Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Symantec、Symantecロゴ、Norton AntiVirusは、SymantecCorporationの米国における登録商標です。

Tcl/Tkは、カリフォルニア大学、サン・マイクロシステムズ社、Scriptics社他が作成したフリーソフトです。

UNIX は、X/Open Company Limited が独占的にライセンスしている米国および他の国における登録商標です。

VirusScanおよびNetShieldは、米国Network Associates社および関連会社の商標または登録商標です。

その他の製品名は、各社の商標または登録商標です。

Microsoft Corporationのガイドラインに従って画面写真を使用しています。

Portions Copyright © Contributors to ISODE Project

Portions Copyright © 1983-1994 Novell,Inc., All Rights Reserved.

JavaChart™ Copyright © 1996-1997 Visual Engineering,Inc.All Rights Reserved

HashJava GNU Library General Public License
All Rights Reserved,Copyright © 株式会社PFU 1995-2005
All Rights Reserved,Copyright © 富士通株式会社 1995-2005
Portions © 1994-1996 Attachmate Corporation.All Rights Reserved.

目次

第1章　概要 1
1.1 Systemwalker Portalとは 2
1.2 Systemwalker Portalの画面 4
1.3 Systemwalker Portalの機能 6
1.4 制限事項 7
第2章　環境 9
2.1 システム構成 10
2.2 ソフトウェア条件 11
第3章　導入 13
3.1 導入前の準備 14
3.1.1 導入手順 14
3.1.2 導入作業で必要な情報 15
3.2 Systemwalker Portalの導入 16
3.2.1 CGIの設定 16
3.2.2 シナリオの設定 20
3.3 Interstage Portalworksでの設定 25
3.4 Systemwalkerコンソールの設定 31
3.5 動作確認作業/初回動作時の設定 33
第4章　運用 39
4.1 運用前の準備 40
4.2 Systemwalker Portalの起動 41
4.3 Systemwalker Portalの使用 44
4.4 Systemwalker Portalの終了 46
4.5 セキュリティに関する注意事項 47
4.6 復旧手順 49
付録A　Webページの追加 51
A.1　Interstage Portalworksでの設定 51
付録B　エラーメッセージと対処方法 55
B.1　Systemwalker Portalに関するエラーメッセージ 55
B.1.1　Systemwalker Portalが起動できない 55
B.1.2　ブラウザのエラー画面が表示される 56
B.1.3　Systemwalker Portalのエラー画面が表示される 57
B.1.4　サーバ情報に「指定なし」と表示される 59
B.2　Systemwalker Operation Managerに関するエラーメッセージ 60
B.2.1　ログインできない 60
B.2.2　ログアウトできない 61
B.2.3　コネクト要求が拒否される 62
B.2.4　画面が表示できない 62
B.2.5　Network Errorが表示される 63
B.3　Systemwalker Service Quality Coordinatorに関するエラーメッセージ 64
B.3.1　画面が表示できない 64

B.3.2　Network Errorが表示される 64

第1章　概要

本章では、Systemwalker Portalの概要について説明します。

1.1 Systemwalker Portalとは

Systemwalker Portalとは、Interstage Portalworksのシナリオ機能を使用し、Systemwalker Operation Manager、およびSystemwalker Service Quality CoordinatorのWeb管理画面を統合した管理コンソールです。

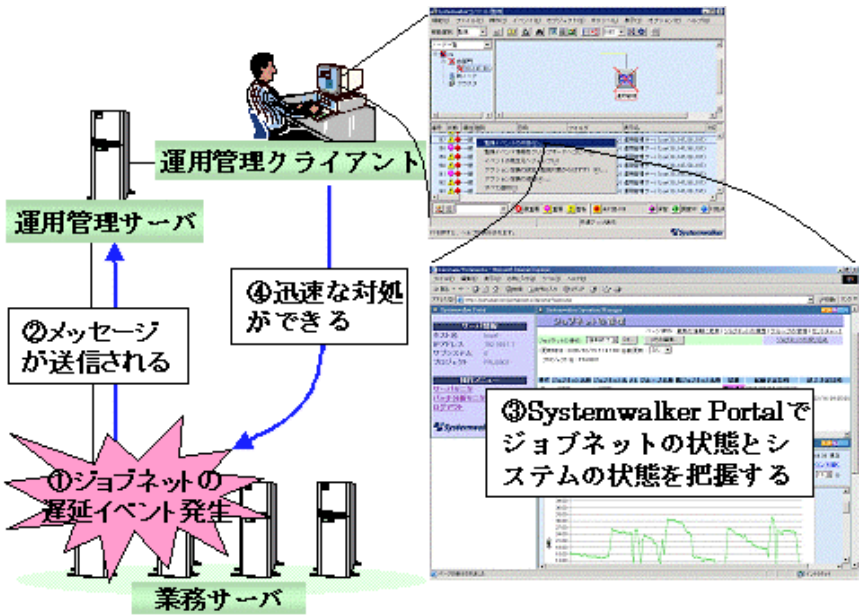
Systemwalker Portalを使用することで、Systemwalkerコンソールからジョブネットの実行状態とシステムの状態を把握できるようになります。

また、Systemwalker Portalには、ユーザが任意のWebページを追加することができます。Webページを追加することで、例えば、Systemwalker Portalで確認できるジョブネットの状態とそれに関係するWebページを一度に確認することができます。

以下に、Systemwalker Portalの運用イメージ、およびSystemwalker Portalの利用方法について説明します。

Systemwalker Portalの運用イメージ

Systemwalker Portalの運用イメージを以下に示します。以下のイメージでは、Systemwalker Operation Managerが検出したジョブネットの遅延メッセージに対し、Systemwalker Portalを起動しています。



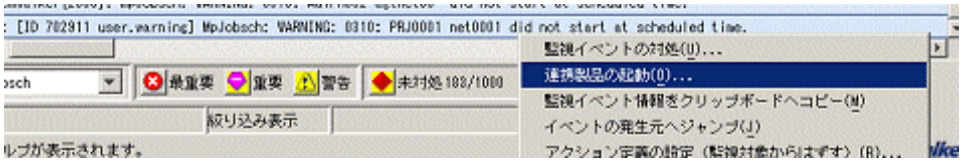
Systemwalkerコンソールの監視イベント一覧からSystemwalker Portalを起動することで、遅延しているジョブネットの実行状態とそのサーバ・システムの状態を同時に確認できます。

これにより、ジョブネットの遅延に対し、迅速な対処ができます。

Systemwalker Portalの利用方法

Systemwalker Portalは、Systemwalker Operation Managerが発信するジョブネットの遅延メッセージに対し、Systemwalkerコンソールから起動できます。

以下に、Systemwalker Portalを起動するときの画面を示します。



Systemwalker Portalの使用方法については、“ 第4章 運用 ” を参照してください。

◆ ジョブネットの遅延メッセージ

Systemwalker Portalを起動できるジョブネットの遅延メッセージを以下に示します。

項番	状態	種別	メッセージ
1	警告	その他	Systemwalker[*XXXX*]: MpJobsch*N*: WARNING: *XXXX*: *PROJRCT JOBNET* did not start at scheduled time.
2	警告	その他	Systemwalker[*XXXX*]: MpJobsch*N*: WARNING: *XXXX*: *PROJRCT JOBNET* did not finish before Estimated end time.

XXXX：数値

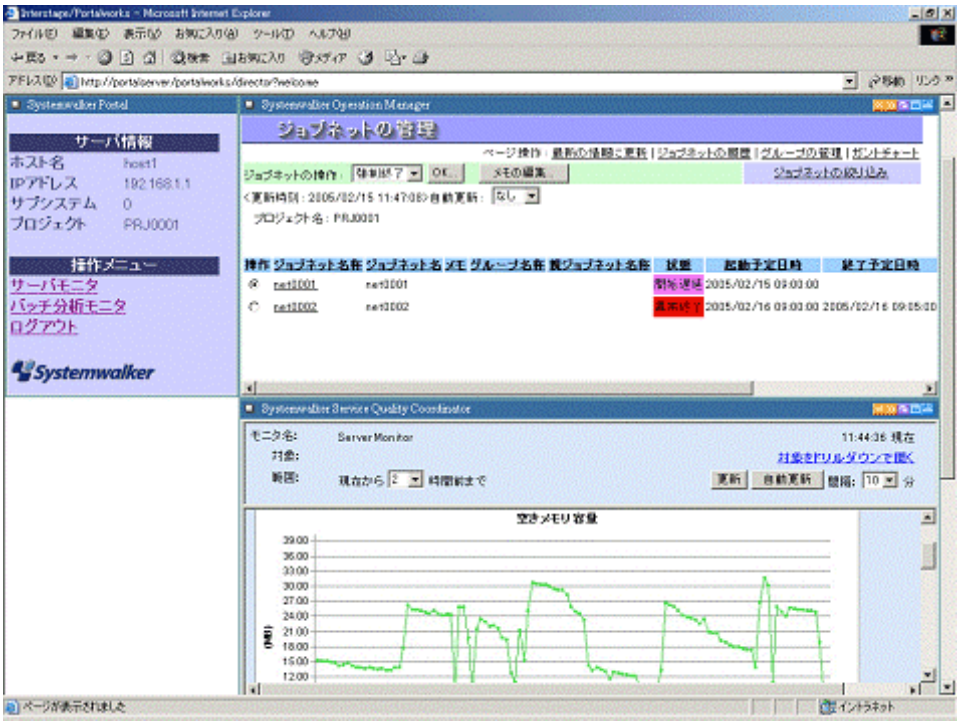
N：Operation Managerのサブシステム番号(1～9の数値、0の場合は省略)

PROJECT：Systemwalker Operation Manager上でのプロジェクト名

JOBNET：Systemwalker Operation Manager上でのジョブネット名

1.2 Systemwalker Portalの画面

Systemwalker Portalの画面について説明します。
以下にSystemwalker Portalの画面を示します。



Systemwalker Portalは、左、右上、右下の3つの画面から構成されています。Systemwalker Portalでは、各画面をブリックと呼びます。
以下に、それぞれのブリックについて説明します。

- 左のブリック
  Systemwalkerコンソールにメッセージを通知したサーバの情報、および操作メニューが表示されます。
  また、操作メニューから[サーバモニタ]または[バッチ分析モニタ]を選択することで、右下のブリックに表示されるSystemwalker Service Quality Coordinatorの画面を切り替えることができます。
- 右上のブリック
  Systemwalker Operation Managerのジョブネットの管理画面が表示されます。
- 右下のブリック
  Systemwalker Service Quality Coordinatorのサーバモニタ画面、またはバッチ分析モニタ画面が表示されます。

Interstage Portalworksの機能を使用することで、Systemwalker Operation Manager、Systemwalker Service Quality Coordinatorのほかに、任意のWebページもSystemwalker Portalに追加できます。

Webページの追加方法については、“付録A Webページの追加”を参照してください。

1.3 Systemwalker Portalの機能

Systemwalker Portalの起動方法および機能について、Systemwalker Operation Manager、Systemwalker Service Quality Coordinatorのコンソールとの比較表を以下に示します。

製品	コンソール種別	起動方法	機能
Systemwalker Operation Manager	クライアント	任意	全ジョブネットの詳細操作
	Web	任意	全ジョブネットの状態監視と簡易操作
Systemwalker Service Quality Coordinator	Web	任意	全サーバの性能監視と詳細操作
Systemwalker Portal	Web	ジョブネットが遅延した場合に、Systemwalker Centric Manager運用管理クライアントから起動	遅延したジョブネットに対する状態監視と簡易操作 そのサーバの性能監視と操作

Systemwalker Portalは、ジョブネットの遅延が発生した場合に、Systemwalker Centric Manager運用管理クライアントから起動することで利用できるコンソールです。Systemwalker Portalを起動することにより、ジョブネットの状態監視と操作、またサーバの性能監視をまとめて実施できます。

ただし、Systemwalker Portalが提供するのは簡易操作コンソールです。このため、ジョブネットの詳細操作やその他の情報を確認する場合は、従来通りSystemwalker Operation Managerクライアント、およびSystemwalker Service Quality Coordinatorのコンソールを使用してください。

1.4 制限事項

Systemwalker Portalを使用する場合の制限事項について説明します。

監視対象のホスト名について

被監視サーバのホスト名に利用できる文字に制限があります。
以下に利用可能な文字を示します。

半角英数字(A～Z、a～z、0～9)、－(半角マイナス)記号、．(ピリオド)記号

また、「Unknown」というホスト名は予約語のため、使用できません。

Systemwalker Operation Managerについて

Systemwalker Operation Managerの制限事項について説明します。

◆ Webサーバ

Systemwalker Operation Managerを単体で使用する場合、1台のWebサーバで複数台のSystemwalker Operation Manager サーバを監視・操作することが可能です。

しかし、Systemwalker PortalからSystemwalker Operation Managerを利用する場合、それぞれのSystemwalker Operation ManagerのサーバにWebサーバが必要です。

Systemwalker Portalは、それぞれのSystemwalker Operation Managerのサーバに共存するWebサーバを参照します。

Web用の設定は“Systemwalker Operation Manager 導入手引書”の“2.12 Webブラウザから使用する場合の定義”を参照してください。

◆ サブシステムのポート番号

Systemwalker Operation Managerでサブシステムを利用している場合、サブシステムに割り当てるポート番号を、すべての監視対象のサーバで共通にする必要があります。

◆ プロジェクト名とジョブネット名

Systemwalker Portalで利用できるSystemwalker Operation Managerのプロジェクト名とジョブネット名では利用できる文字に制限があります。

以下に利用可能な文字を示します。

半角英数字(A～Z、a～z、0～9)、＋(半角プラス)記号、－(半角マイナス)記号、＿(半角アンダースコア)記号

また、「NO_PROJECT」というプロジェクト名は予約語のため、使用できません。

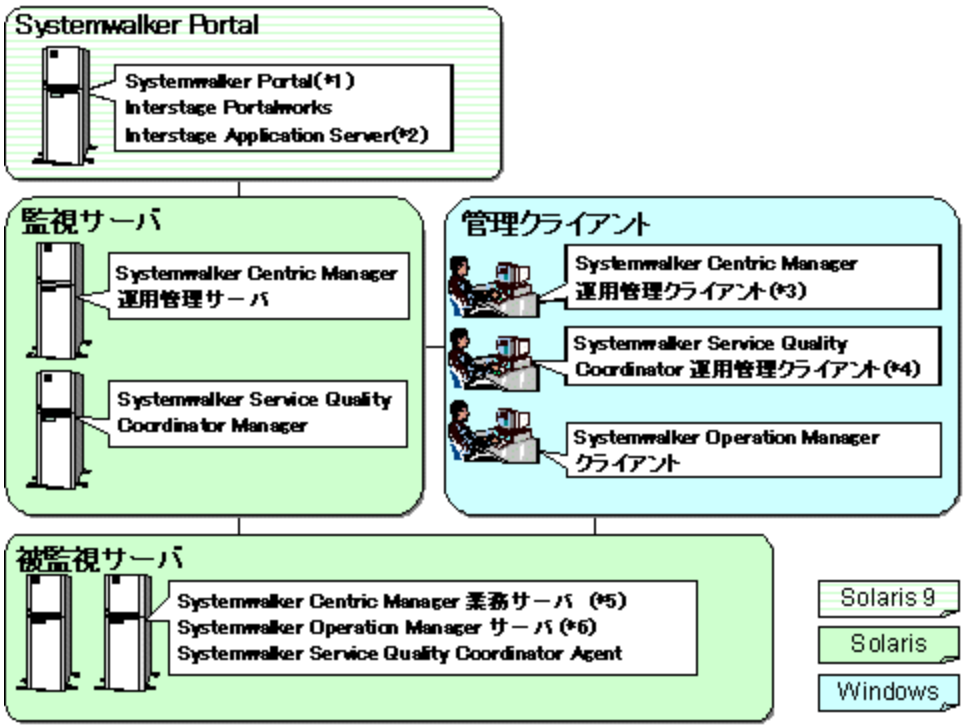
第2章　環境

本章では、Systemwalker Portalを使用する場合のシステム構成について説明します。

2.1 システム構成

Systemwalker Portalを使用する場合のシステム構成について、以下にイメージを示します。

なお、同じ吹き出し内のソフトウェアは共存させる必要があります。吹き出し内のソフトウェアが共存していれば、他の吹き出しのソフトウェアと混在させることも可能です。



*1:Systemwalker Portalは、Solaris 9上で動作します。

*2:Interstage HTTP Serverが必要です。

*3:Internet Explorer 6.0 SP1が必要です。

*4:Microsoft Internet Information Serverが必要です。

*5:システム監視エージェントが必要です。必ずしもSystemwalker Centric Manager 業務サーバである必要はありません。

*6:それぞれの被監視サーバにWebサーバが必要です。

2.2 ソフトウェア条件

Systemwalker Portalを使用する場合のソフトウェア条件を以下に示します。

なお、同じ枠内のソフトウェアは、共存させる必要があります。同じ枠内のソフトウェアが共存していれば、他の枠のソフトウェアと混在させることも可能です。

Systemwalker Portal

OS	ソフトウェア条件
Solaris 9	Interstage Portalworks 6.0 Interstage Application Server 6.0 Interstage HTTP Server

監視サーバ

OS	ソフトウェア条件
Solaris 7 Solaris 8 Solaris 9	Systemwalker Centric Manager SE/EE/GEE 12.0 運用管理サーバ
	Systemwalker Service Quality Coordinator SE/EE 12.0 Manager

管理クライアント

OS	ソフトウェア条件
Windows	Systemwalker Centric Manager SE/EE/GEE V12.0L10 運用管理クライアント Internet Explorer 6.0 SP1
	Systemwalker Service Quality Coordinator SE/EE V12.0L10 運用管理クライアント Microsoft Internet Information Server
	Systemwalker Operation Manager SE/EE/GEE V12.0L10 クライアント

被監視サーバ

OS	ソフトウェア条件
Solaris 7 Solaris 8 Solaris 9	Systemwalker Service Quality Coordinator SE/EE 12.0 Agent Systemwalker Centric Manager SE/EE 12.0 業務サーバ(注1) Systemwalker Operation Manager SE/EE/GEE 12.0 サーバ(注2)

注1)システム監視エージェントが必要です。必ずしもSystemwalker Centric Manager 業務サーバである必要はありません。

注2)Webサーバを共存させる必要があります。

第3章　導入

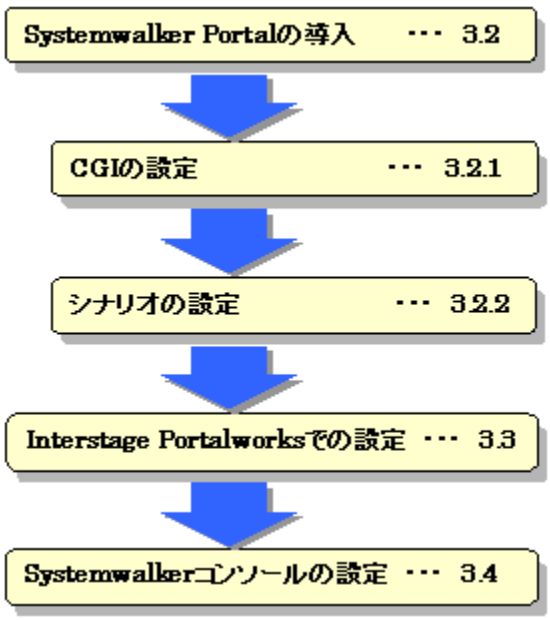
本章では、Systemwalker Portalを導入する手順について説明します。

3.1 導入前の準備

Systemwalker Portalの導入手順、および導入作業で必要な情報を説明します。

3.1.1 導入手順

Systemwalker Portalの導入手順を以下に示します。



Systemwalker Portalの各導入手順について、概要を説明します。

Systemwalker Portalの導入

Systemwalker PortalのCGI、およびシナリオを設定し、Interstage Portalworksが導入されているサーバに設置します。

Interstage Portalworksでの設定

Systemwalker Portalのシナリオが Interstage Portalworksのサービスとして動作するための設定をします。

Systemwalkerコンソールの設定

Systemwalkerコンソールから Systemwalker Portalを起動するために、Systemwalkerコンソールの設定をします。

3.1.2 導入作業で必要な情報

Systemwalker Portalを導入するときに必要な情報を以下に示します。導入前にまとめておくことをお勧めします。

また、導入作業では、以下のファイルが必要です。Systemwalker技術情報ホームページから事前にダウンロードしてください。

- Systemwalker Portal CGI：swptl.tar （tar形式）
- Systemwalker Portal シナリオ：swptl.exe （自己解凍圧縮形式）
- Systemwalker Portal 利用ガイド：swptl.pdf （本書）

CGIの設定で必要な情報

CGIの設定時に、以下の情報が必要となります。

- Interstage Portalworksのログオン画面のURL
- Systemwalker Portalで監視するサーバのホスト名、およびIPアドレス
- Systemwalker Operation Managerのサブシステムのポート番号

シナリオの設定で必要な情報

シナリオの設定時に、以下の情報が必要となります。

- Systemwalker Service Quality Coordinatorの運用管理クライアントのIPアドレス

3.2 Systemwalker Portalの導入

Systemwalker Portalの導入作業について説明します。

Systemwalker Portal CGIおよびシナリオの編集は、本サービスそのものに影響を与えます。設定誤り等はSystemwalker Portalサービスの停止等につながりますので、くれぐれも慎重に実施してください。また、設定変更後は必ず“3.5 動作確認作業/初回動作時の設定”の手順で、確認テストを行ってから運用してください。

3.2.1 CGIの設定

SystemwalkerPortalのCGIを設定する手順を説明します。

CGIファイルを展開・設置する

SystemwalkerPortalのCGI（swptl.tar）を、Interstage Portalworksが導入されているサーバ上に展開します。

以下のコマンドでカレントディレクトリにCGI一式を展開します。

```
tar xvf swptl.tar
```

以下に、CGI一式の構成と各ファイルの説明を示します。

ディレクトリ名	サブディレクトリ名	ファイル名	説明
swptl	conf	swptldata	Systemwalkerコンソールと Systemwalker Portalとの連携用ファイルです。
		omgrport	Systemwalker Operation Managerのサブシステムのポート番号設定ファイルです。
		hostlist	Systemwalker Portalで監視するサーバ情報を登録するファイルです。
	cgi-bin	swptl.cgi	SystemwalkerPortalのCGI本体です。
	scenario	なし	Systemwalker Portalのシナリオを一時的に格納するためのディレクトリです。

swptlディレクトリの設置場所は任意です。使用する環境に合わせて、設置してください。

本書では、/opt 配下に設置するものとして説明します。

CGIファイルを編集する

cgi-binディレクトリにあるswptl.cgiファイルを編集します。
以下に手順を示します。

1. テキストエディタでswptl.cgiファイルを開き、以下の部分を探します。

```
#####################################################
### Path Settings
#####################################################
my $basedir = "/opt/swptl/conf";
my $swptldata = "$basedir/swptldata";
my $omgrport = "$basedir/omgrport";
my $hostlist = "$basedir/hostlist";
my $lockfile = "$basedir/swptllock";
my $portalworks = "http://portalserver/portalworks/director/";
```

2. 編集する必要があるのは以下の2箇所です。使用する環境に合わせて、パスを設定します。
   - $basedir =
     Systemwalker PortalのCGIのconfディレクトリをフルパスで指定します。
     上記の例では、デフォルトのとおり"/opt/swptl/conf"としています。
   - $portalworks =
     Interstage Portalworksのログオン画面のURLを指定します。
     上記の例では、サーバ名をportalserverとしています。
3. 編集したswptl.cgiファイルを保存します。

設定ファイルを編集する

confディレクトリにある以下のファイルを編集します。

- hostlist
- omgrport

◆ hostlistファイルの編集

Systemwalker Portalで監視するサーバの情報をhostlistに追加します。
以下に手順を示します。

1. テキストエディタでhostlistファイルを開き、以下の部分を探します。

```
### Target Hosts
host1=192.168.1.1
host2=192.168.1.2
      ・
      ・
```

2. 監視するサーバの情報を「ホスト名=IPアドレス」の形式で追加します。
3. 編集したhostlistファイルを保存します。

◆ omgrportファイルの編集

Systemwalker Operation Managerのサブシステムのポート番号をomgrportファイルに追加します。

以下に手順を示します。

1. テキストエディタでomgrportファイルを開き、以下の部分を探します。

```
### Job Scheduler Port Numbers
jobsch_win0=9297
jobsch_win1=9298
jobsch_win2=9299
      ・
      ・
```

2. Systemwalker Operation Managerのサブシステムに割り当てたポート番号を以下の形式で追加します。

```
jobsch_winN=ポート番号
```

N：サブシステム番号(1～9の数値)

監視対象として、複数のSystemwalker Operation Managerが存在する場合、各サブシステムに割り当てるポート番号はすべて共通にします。

デフォルトでjobsch_win0=9297が設定されていますが、ジョブスケジューラのポート番号を変更していない限り、この設定は変更しないでください。

3. 編集したomgrportファイルを保存します。

ファイル属性を設定する

Systemwalker PortalのCGIにファイル属性を設定します。

以下に手順を示します。

1. Systemwalker PortalのCGIにアクセス権限を設定します。

以下にアクセス権限の設定値を示します。

```
swptl [711]
  |
  +---- conf [700] / swptldata [600]
  |                  omgrport  [400]
  |                  hostlist  [400]
  |
  +---- cgi-bin [500] / swptl.cgi [500]
  |
  +---- scenario [700]

                括弧[]内の数字が、アクセス権限を示しています。
```

以下にコマンドの実行例を示します。以下の例では、swptlディレクトリを711のアクセス権限に設定しています。

```
chmod 711 swptl
```

2. Systemwalker PortalのCGIにオーナ、およびグループの属性を設定します。

すべてのファイルおよびディレクトリに対し、nobodyの属性を設定します。

以下にコマンドの実行例を示します。以下の例では、すべてのファイルおよびディレクトリに対し、オーナおよびグループの属性をnobodyに設定しています。

```
chown –R nobody:nobody swptl
```

Webサーバへ登録する

Systemwalker PortalのCGIをWebサーバに登録するために、Interstage HTTP Serverの設定ファイルを編集します。

以下に手順を示します。

1. 以下のファイルをテキストエディタで開きます。

   ```
   /opt/FJSVihs/conf/httpd.conf
   ```

   Interstage HTTP Serverをデフォルトの /opt/FJSVihs にインストールしていない場合は、/opt/FJSVihs部分をインストールしたディレクトリに読み替えてください。

2. httpd.confファイルを編集します。

   httpd.confファイルの最後に以下の1行を追加します。

   ```
   ScriptAlias /swptl/ "/opt/swptl/cgi-bin/"
   ```

3. Interstage HTTP Serverを再起動します。

   再起動の手順については、“Interstage Application Server Webサーバ運用ガイド (Interstage HTTP Server編)”の“3.1 起動・停止”を参照してください。

ユーザ認証を設定する

Systemwalker PortalのCGIにアクセスするユーザに対し、ユーザ認証(基本認証)を設定します。

ユーザ認証(基本認証)の設定は、以下のディレクトリに対して行います。

```
/opt/swptl/cgi-bin/
```

設定方法については、“Interstage Application Server セキュリティシステム運用ガイド”の“4.1 ユーザ認証”を参照してください。

3.2.2 シナリオの設定

Systemwalker Portalのシナリオを作成する手順を説明します。

シナリオファイルを展開する

Interstage Portalworksのシナリオ作成支援ツールが導入されている端末上にSystemwalker Portalのシナリオ一式（swptl.exe）を展開します。

swptl.exeファイルは自己解凍形式です。swptl.exeファイルをダブルクリックして展開してください。

以下に、シナリオ一式の構成と各ファイルの説明を示します。

フォルダ名	サブフォルダ名	ファイル名	説明
swptl	SWPTL	SWPTL.jar	Systemwalker Portalブリックのシナリオです。サーバ情報や操作メニューが登録されています。
	SWOMGR	SWOMGR.jar	Systemwalker Operation Managerブリックのシナリオです。
	SWSQC	SWSQC.jar	Systemwalker Service Quality Coordinatorブリックのシナリオです。

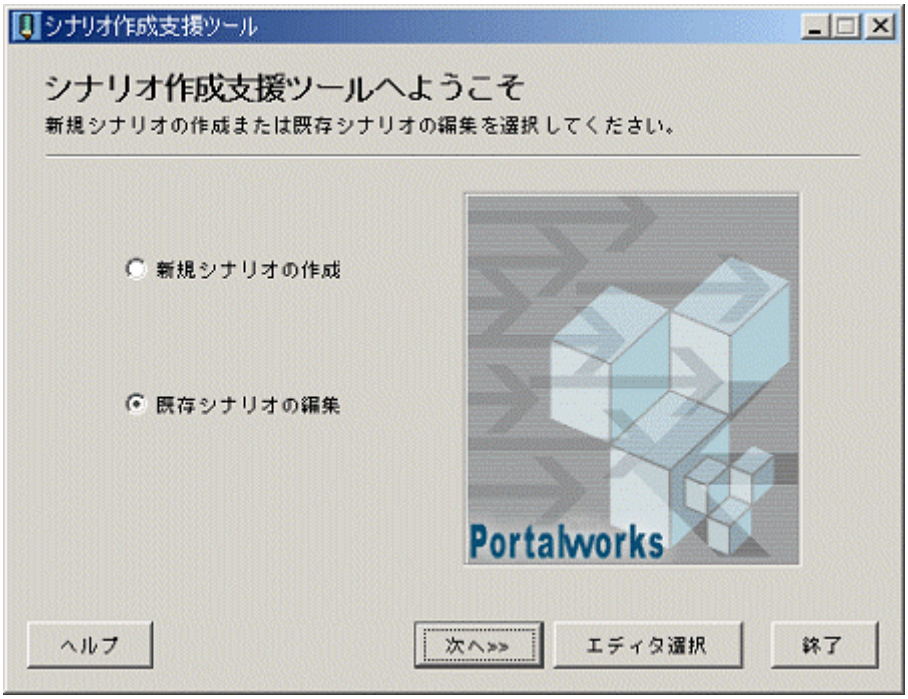
swptlディレクトリの展開先パスは任意です。

シナリオを編集する

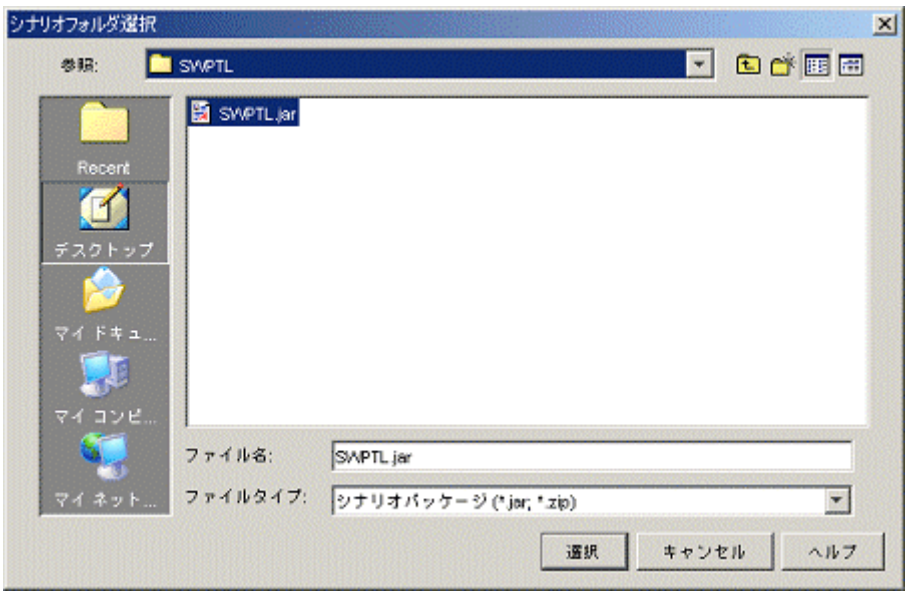
Interstage Portalworksのシナリオ作成支援ツールを使用し、Systemwalker Portal シナリオを編集します。

以下に手順を示します。

1. Interstage Portalworksのシナリオ作成支援ツールを起動します。
   →[シナリオ作成支援ツール]画面が表示されます。

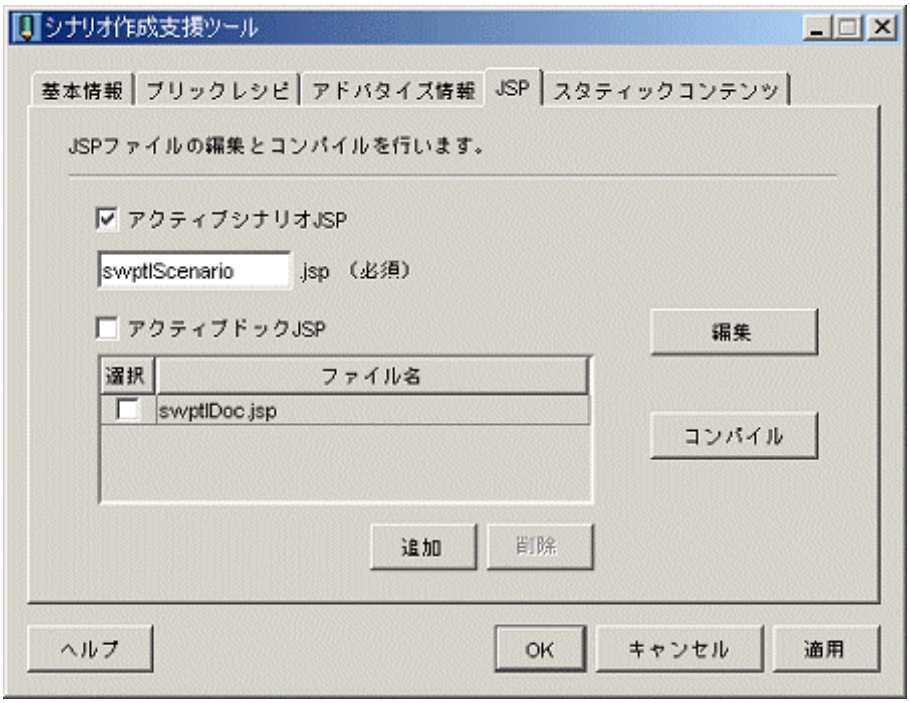


2. [既存シナリオの編集]チェックボックスを選択し、[次へ>>]ボタンを選択します。
   →[シナリオフォルダ選択]画面が表示されます。



3. SWPTL、SWOMGR、SWSQCのいずれかのシナリオファイル(.jar)を選択します。
   →以下のメッセージボックスが表示されます。

4. [はい]ボタンを選択します。
5. シナリオ編集ダイアログで[JSP]タブを選択し、[アクティブシナリオJSP]チェックボックスにチェックを入れます。



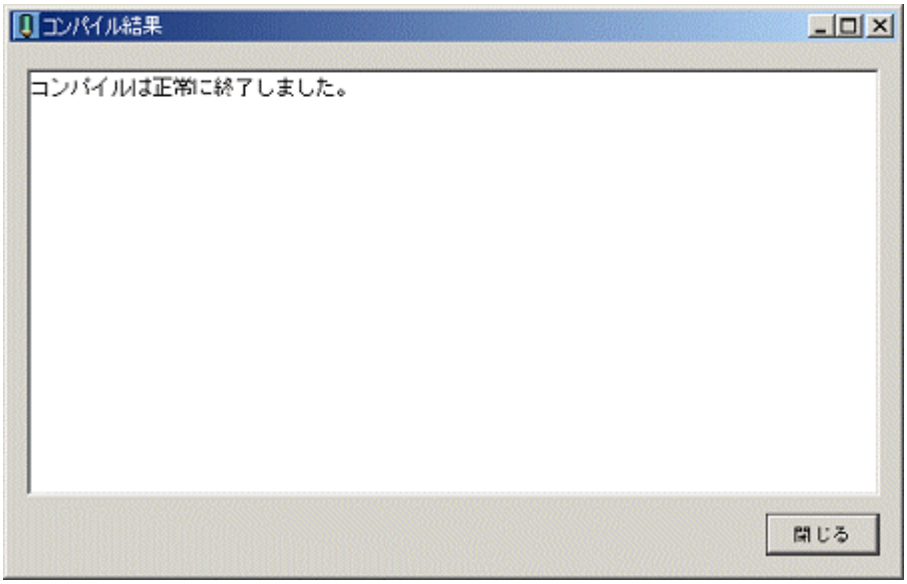
6. [編集]ボタンを選択します。
   →JSPファイルがテキストエディタで表示されます。
7. 以下の部分を探し、JSPファイルを編集します。

```
<%
////////////////////////////////////////////////////////////////////////
//
// *** USER SETTINGS ***
//
////////////////////////////////////////////////////////////////////////
String BasePath = "/opt/swptl/conf";
String DataPath = BasePath + "/swptldata";
String SQCWeb = "192.168.0.1";
////////////////////////////////////////////////////////////////////////
%>
```

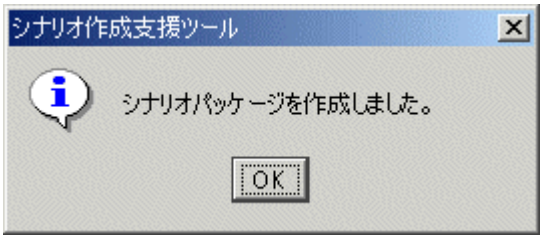
編集する必要があるのは以下の2箇所です。

- BasePath =
  Systemwalker PortalのCGIのconfディレクトリをフルパスで指定します。この例ではデフォルトのとおり"/opt/swptl/conf"とします。
- SQCWeb =
  Systemwalker Service Quality Coordinatorの運用管理クライアントのIPアドレスを指定します。この例では192.168.0.1とします。
  ただし、SWOMGR.jarシナリオに対し、作業を実施する場合、この作業は不要です。

8. [コンパイル]ボタンを選択します。
   →[コンパイル結果]画面が表示されます。エラーが表示された場合は、手順7で編集した内容を確認してください。



9. [閉じる]ボタンを選択します。
10. シナリオ編集ダイアログで[OK]ボタンを選択し、シナリオパッケージを保存します。
    →以下のメッセージボックスが表示されます。



11. [OK]ボタンを選択します。

12. SWPTL、SWOMGR、SWSQCのすべてのシナリオに対して、手順2から手順11の操作を実施します。

シナリオファイルを設置する

作成したSWPTL.jar、SWOMGR.jar、SWSQC.jarを、Interstage Portalworksが導入されているサーバの以下のディレクトリに格納します。

```
/opt/swptl/scenario
```

Systemwalker Portalには、任意のWebページを追加することができます。Webページを追加する場合は、“付録A Webページの追加”を参照し、追加作業を実施してください。

Systemwalker Portalとして提供されるシナリオは、すべてInterstage Portalのサンプル・シナリオとして、ユーザが自由に改変することができます。シナリオの改変方法については、“Interstage Portalworks シナリオ作成支援ガイド”を参照してください。

3.3 Interstage Portalworksでの設定

Interstage Portalworksでの設定作業について説明します。

利用者情報を作成する

Systemwalker Portalで使用する利用者情報を作成します。
以下に手順を示します。

1. Interstage Portalworksの運用管理コンソールを起動します。
   運用管理コンソールの起動方法については、“Interstage Portalworks 管理者ガイド”の“1.4.3 運用管理機能（運用管理コンソール）の起動”を参照してください。
2. Interstage Portalworksの運用管理コンソールで[利用者情報]-[利用者情報作成]を選択します。
3. Systemwalker Portal用のログオンIDを作成します。
   任意のログオンIDとパスワードを指定します。このとき、所属ロールは何も選択しないでください。
   本書では、Systemwalkerというログオンを作成するものとします。

シナリオを登録する

SWPTL.jar、SWOMGR.jar、SWSQC.jarの全てのシナリオをInterstage Portalworksに登録します。

以下に手順を示します。

1. Interstage Portalworksの運用管理コンソールで[サービス]-[シナリオ登録]を選択します。
   →以下の画面が表示されます。

2. [シナリオ定義体のURL]欄に、アップロードしたシナリオファイルのパスをフルパスで指定します。このとき、パスの前に「file:」を入れて指定します。

   [SWPTL.jarの例]

```
file:/opt/swptl/scenario/SWPTL.jar
```

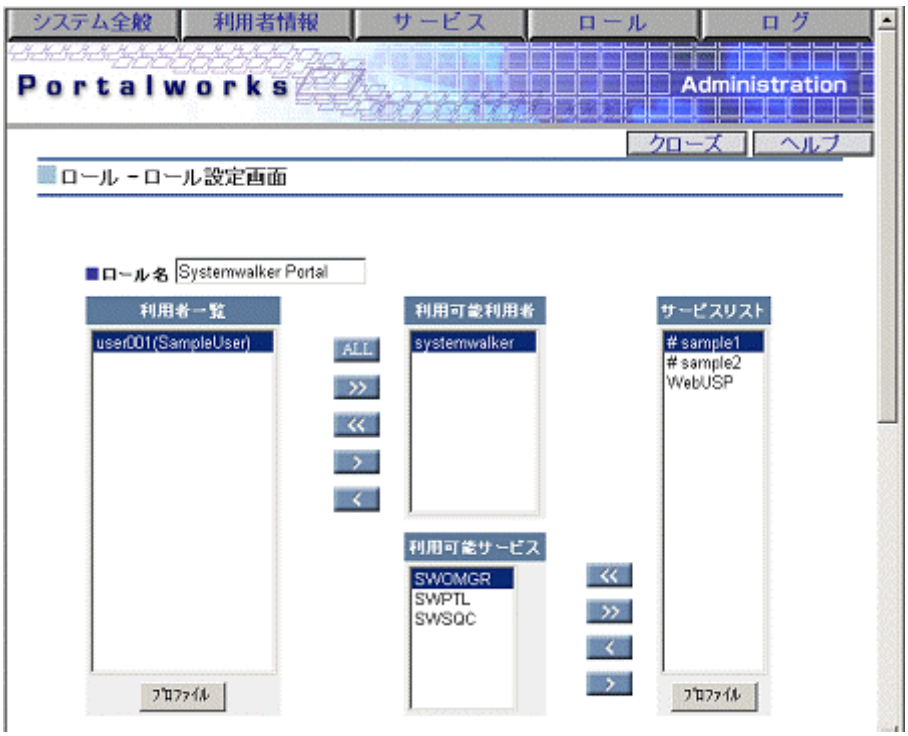
   →登録に成功すると、ブリックの初期状態設定画面が表示されますが、すべてデフォルトで登録します。

3. 手順1から手順2の操作を繰り返して、SWPTL.jar、SWOMGR.jar、SWSQC.jarのすべてのシナリオを登録します。

ロールを作成する

Systemwalker Portalで使用するロールを作成します。
以下に手順を示します。

1. Interstage Portalworksの運用管理コンソールで[ロール]-[登録/変更/削除]を選択します。
   →ロールの一覧画面が表示されます。
2. [新規作成]ボタンを選択します。
   →ロール設定画面が表示されます。



3. 以下の情報を指定します。

項目	設定
ロール名	Systemwalker Portal
利用可能利用者	“利用者情報を作成する”で登録したログオンID
利用可能サービス	SWPTL
	SWOMGR
	SWSQC

4. [更新]ボタンを選択します。
   →ロール作成[確認画面]が表示されます。

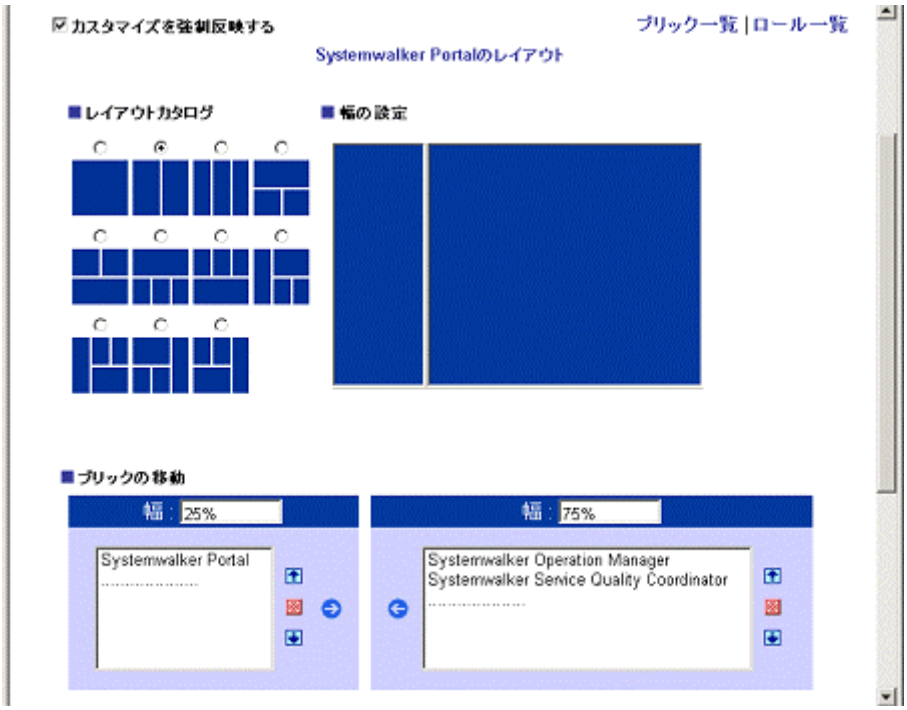
5. [登録]ボタンを選択します。
6. ロールを登録すると、[ロール]-[登録/変更/削除]のロール一覧の画面に戻ります。
   ここに「Systemwalker Portal」が登録されていることを確認してください。

画面レイアウトを設定する

Systemwalker Portalの画面を設定します。
以下に手順を示します。

1. Interstage Portalworksの運用管理コンソールの[ロール-登録/変更/削除]画面で、[Systemwalker Portal]リンクの左側にあるアイコンをクリックします。

2. [カスタマイズを強制反映する]にチェックを入れます。



3. [レイアウトカタログ]の最上段左から2番目の縦二分割のレイアウトを選択します。
4. [幅の設定]の画面分割バーをマウスで移動させ、左側を25%、右側を75%にします。
5. [ブリックの移動]で、以下のように配置します。

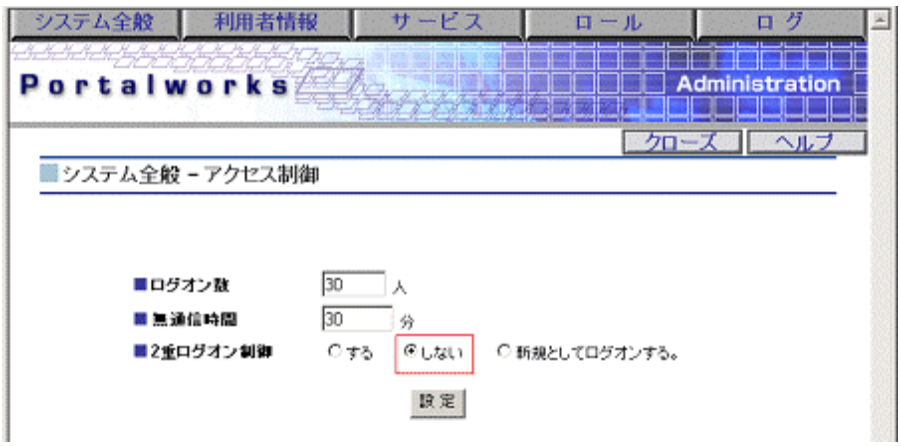
幅：25%	幅：75%
Systemwalker Portal	Systemwalker Operation Manager
	Systemwalker Service Quality Coordinator

6. [更新]ボタンを選択します。

アクセス制御の設定

Systemwalker Portalにログオンするときのアクセス制御の設定をします。
以下に手順を説明します。

1. Interstage Portalworksの運用管理コンソールで[システム全般]-[アクセス制御]を選択します。
2. [2重ログオン制御]ラジオボタンを、Interstage Portalworksの他の運用に影響がない限り、[しない]に設定します。



注意

[2重ログオン制御]を[する]に設定した場合、Systemwalker Portalは同時に1台のSystemwalkerコンソールからしか使用できなくなります。

3.4 Systemwalkerコンソールの設定

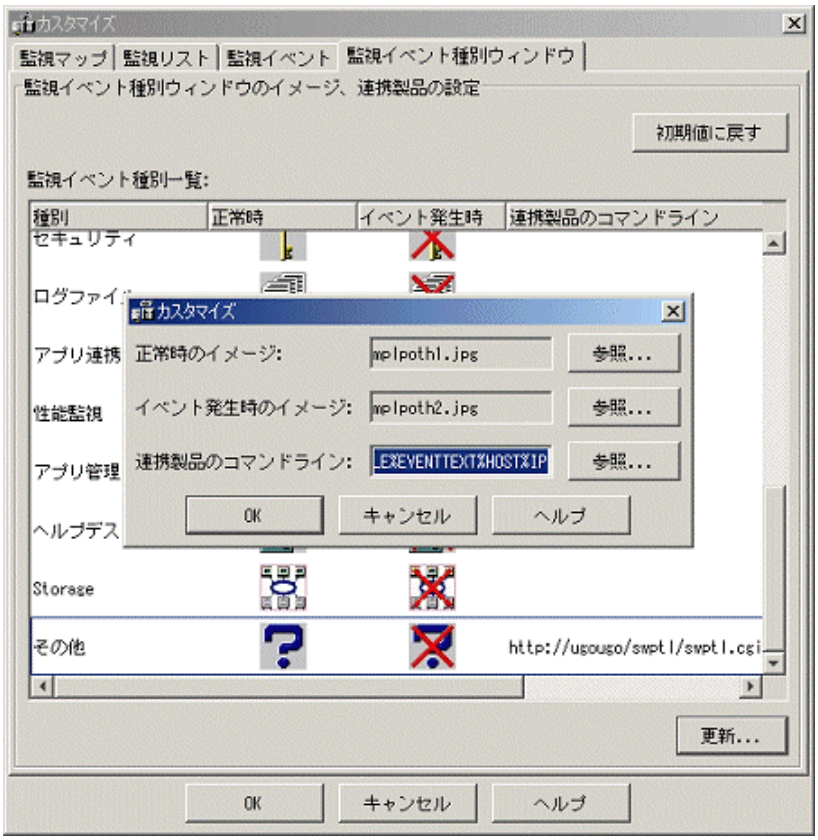
Systemwalkerコンソールから Systemwalker Portalを起動するために、Systemwalkerコンソールを設定します。

以下に手順を示します。

1. [Systemwalkerコンソール]を起動し、[機能選択]を[監視]モードにします。
2. [オプション]メニューから[カスタマイズ]を選択します。
   →[カスタマイズ]画面が表示されます。
3. [監視イベント種別ウィンドウ]タブを選択します。
4. [監視イベント種別一覧]で[その他]を選択し、[更新]ボタンを選択します。
   →[カスタマイズ]画面が表示されます。
5. [連携製品のコマンドライン]に以下を設定します。

   ```
   http://portalserver/swptl/swptl.cgi %FILE%EVENTTEXT%HOST%IP
   ```

   portalserverの部分にInterstage Portalworksサーバの IPアドレス、DNS、またはhostsファイルに登録されたホスト名を指定してください。



6. [OK]ボタンを選択し、[カスタマイズ]画面を閉じます。

3.5 動作確認作業/初回動作時の設定

Systemwalker Portalが正常に動作することを確認し、初回動作時のみ必要となる設定を行います。

動作確認作業、および初回動作時の設定は、Systemwalker Operation Managerでイベントを発生させ、Systemwalker Portalを起動することで行います。

以下に手順を示します。

1. swptl.cgiファイルを編集する
2. Systemwalker Operation Managerでイベントを発生させる
3. Systemwalker Portalを起動する
4. Systemwalker Portalの動作を確認する
5. swptl.cgiファイルを編集する

swptl.cgiファイルを編集する

Systemwalker Portalの動作確認を行うため、swptl.cgiを編集します。

以下に手順を示します。以下の手順は、Systemwalker Portalを設置したサーバで行います。

1. swptl.cgiファイルのアクセス権限を書き込み可能に変更します。

   以下にswptl.cgiファイルのパスを示します。

```
/opt/swptl/cgi-bin/swptl.cgi
```

2. swptl.cgiファイルをテキストエディタで開きます。
3. 以下の部分を探し、編集します。

```
#####################################################
### Flag switch
###   0: OFF
###   1: ON
#####################################################
$testFlag = 0;
$debugFlag = 0;
```

   編集する必要があるのは以下の箇所です。

   - $testFlag =

     デフォルトの設定値"0"を、確認テストのため、"1"に変更します。

4. 編集したswptl.cgiファイルを保存します。

Systemwalker Operation Managerでイベントを発生させる

Systemwalker Portalの動作確認を行うため、被監視サーバでジョブネットの遅延イベントを発生させます。

以下に手順を示します。以下の手順は、被監視サーバで行います。

1. Systemwalker Operation Manager サーバがインストールされている被監視サーバに、root権限でログインします。
2. 以下のloggerコマンドを実行します。

```
logger -p user.warning "MpJobsch: WARNING: 0310: PROJRCT JOBNET did not start at scheduled time."
```

PROJRCT JOBNET:

実際にそのSystemwalker Operation Managerに登録されている任意のプロジェクト名とジョブネット名を指定します。

複数のサブシステムを利用している場合は、サブシステム番号0のプロジェクトを指定します。

PROJECT:

Systemwalker Operation Manager上でのプロジェクト名

JOBNET:

Systemwalker Operation Manager上でのジョブネット名

Systemwalker Portalを起動する

被監視サーバで発生させたジョブネットの遅延メッセージに対し、Systemwalker Portalを起動します。

以下に手順を示します。以下の手順は、運用管理クライアントで行います。

1. [Systemwalkerコンソール]を起動し、[機能選択]を[監視]モードにします。

   イベント一覧に“Systemwalker Operation Managerでイベントを発生させる”で登録した以下のメッセージが通知されていることを確認します。

状態	種別	メッセージ
警告	その他	*USER*: MpJobsch: WARNING: 0310: *PROJRCT JOBNET* did not start at scheduled time.

   USER:

   loggerコマンドの実行ユーザ

   PROJECT:

   Systemwalker Operation Manager上でのプロジェクト名

   JOBNET:

   Systemwalker Operation Manager上でのジョブネット名

2. Systemwalkerコンソールの監視イベント一覧から該当のイベントを選択し、右クリックします。

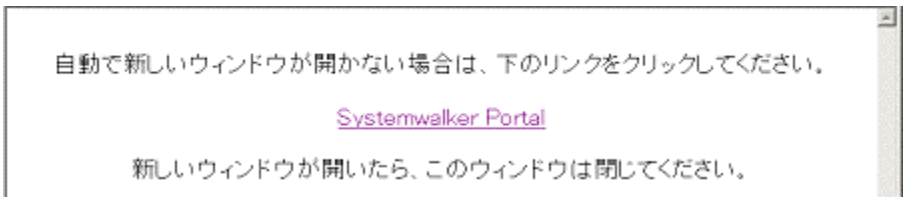
   →メニューが表示されます。

3. [連携製品の起動]を選択し、Webブラウザを起動します。

   →Systemwalker PortalのCGIフォルダに対して、基本認証を設定している場合、[ネットワークパスワードの入力]画面が表示されます。

   a) ユーザ名とパスワードを入力します。

b) [OK]ボタンを選択します。
→[Systemwalker Centric Manager Link Page]画面が表示されます。



→[Systemwalker Centric Manager Link Page]画面で、以下のメッセージボックスが表示されます。

- [Interstage/Portalworks]画面が表示されている場合は、[はい]ボタンを選択します。
- [Interstage/Portalworks]画面が表示されていない場合は、[いいえ]を選択し、[Systemwalker Centric Manager Link Page]画面の[Systemwalker Portal]リンクを選択し、[Interstage/Portalworks]画面を手動で起動します。
  その後、[Systemwalker Centric Manager Link Page]画面を手動で閉じます。

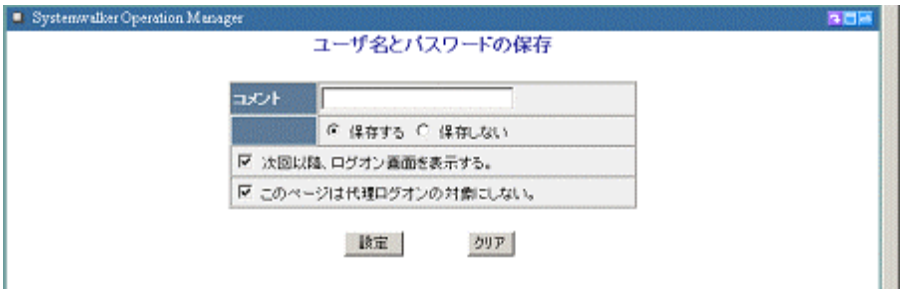
Systemwalker Portalの動作を確認する

起動したSystemwalker Portalの動作を確認します。
以下に手順を示します。

1. Interstage Portalworksのログオン画面で、Systemwalker Portal用のログオンID、パスワードを入力し、[OK]ボタンを選択します。

→Systemwalker Portalの画面が表示されます。

2. Systemwalker Portalの画面で、右上のブリックにSystemwalker Operation Managerのログイン画面が表示されていることを確認します。
3. Systemwalker Operation Managerのユーザでログインします。
   →ログイン直後に[ユーザ名とパスワードの保存]画面が表示されます。



Systemwalker Operation Managerに、初めてログインする場合だけ、[ユーザ名とパスワードの保存]画面が表示されます。

以下の設定を行ってください。

項目	設定
ユーザ名とパスワードの保存	保存する
次回以降、ログオン画面を表示する。	チェックする
このページは代理ログオンの対象にしない。	チェックする

注意

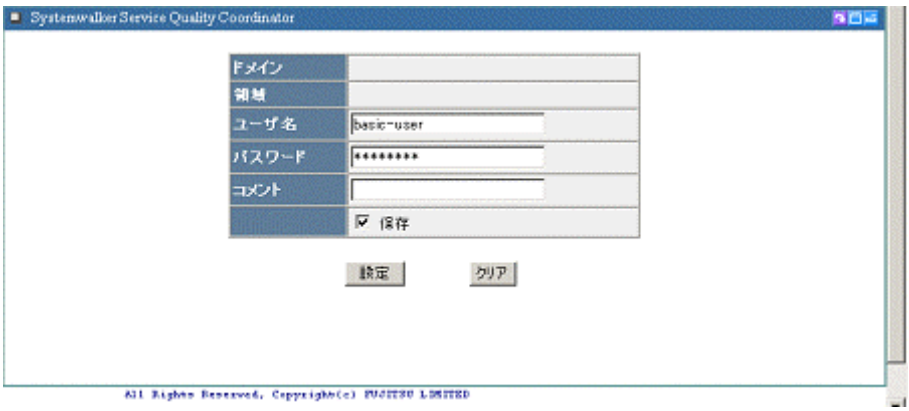
[ユーザ名とパスワードの保存]の画面は、Systemwalker Portal導入後に初めて接続するSystemwalker Operation Managerのログイン画面直後に1回だけ表示されます。全て上記と同じ設定を実施してください。

間違えて設定した場合、Systemwalker Operation Managerがログアウトできなくなります。対処方法については、“B.2.1 ログアウトできない”を参照してください。

4. [ジョブネットの管理]画面が表示されることを確認します。
5. Systemwalker Portalの画面で、右下のブリックにSystemwalker Service Quality Coordinatorの画面が表示されていることを確認します。

   Systemwalker Service Quality Coordinatorのコンソールにベーシック認証を設定している場合、認証画面が表示されます。

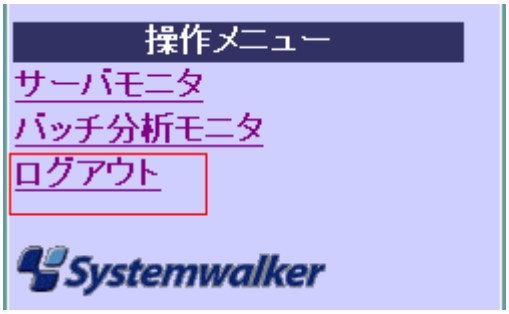
   ここでは、ユーザ名とパスワード入力し、[保存]チェックボックスにチェックを入れて[設定]ボタンを選択します。



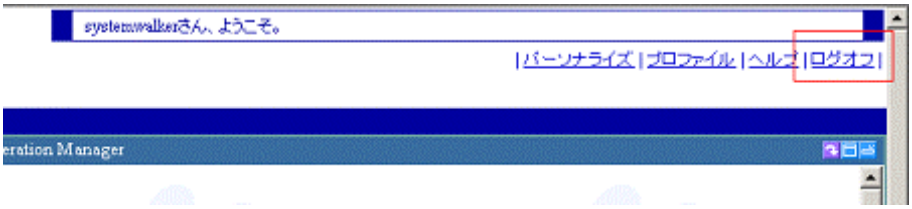
   →[Server Monitor]画面が表示されます。
6. 左側ブリックの[操作メニュー]から[バッチ分析モニタ]を選択します。

   →[OperationMgrMonitor]画面に切り換わることを確認します。
7. 左側ブリックの[操作メニュー]から[ログアウト]を選択します。

   →Systemwalker Operation Managerがログイン画面に戻ります。



8. 画面右上の[ログオフ]を選択し、Interstage Portalworksをログオフします。



swptl.cgiファイルを編集する

動作確認のために編集したswptl.cgiを元に戻します。

以下に手順を示します。以下の手順は、Systemwalker Portalを設置したサーバで行います。

1. swptl.cgiファイルをテキストエディタで開きます。

   以下にswptl.cgiファイルのパスを示します。

```
/opt/swptl/cgi-bin/swptl.cgi
```

2. 以下の部分を探し、編集します。

```
#######################################################
### Flag switch
###    0: OFF
###    1: ON
#######################################################
$testFlag = 0;
$debugFlag = 0;
```

   編集する必要があるのは以下の箇所です。

   - $testFlag =

     デフォルトの設定値”0”に戻します。

3. 編集したswptl.cgiファイルを保存します。
4. swptl.cgiファイルのアクセス権限を“500”に変更します。

第4章　運用

本章では、Systemwalker Portalの運用について説明します。

4.1 運用前の準備

運用前の準備作業について、説明します。

バックアップ

設定変更時の操作ミスや、予期せぬサーバーダウン等の理由により、Systemwalker Portalの環境が破壊されてしまう可能性があります。この問題に対処するため、事前に運用可能な状態の設定をバックアップしておくことをお勧めします。

Systemwalker Portalについては、CGIおよびアップロードしたシナリオ(/opt/swptlディレクトリ) を全てバックアップし、他サーバまたはリムーバブルメディアに保存してください。

その他の製品については、それぞれの製品マニュアルに従って、バックアップしてください。

Systemwalker Operation Managerの設定

監視対象のすべてのマシンで、ジョブネットの遅延メッセージをイベントログ/syslogに出力するよう設定します。

設定方法については、“Systemwalker Operation Manager 導入手引書”の“2.6.1 起動パラメタの定義”で“[ジョブスケジューラ起動パラメタの定義]ウィンドウの[イベント出力]シート”を参照してください。

4.2 Systemwalker Portalの起動

Systemwalkerコンソールを[監視]モードで利用している状態で、イベント一覧に以下のいずれかのメッセージが通知された場合、Systemwalker Portalを起動できます。

項番	状態	種別	メッセージ
1	警告	その他	Systemwalker[*XXXX*]: MpJobsch*N*: WARNING: *XXXX*: *PROJRCT JOBNET* did not start at scheduled time.
2	警告	その他	Systemwalker[*XXXX*]: MpJobsch*N*: WARNING: *XXXX*: *PROJRCT JOBNET* did not finish before Estimated end time.

XXXX：数値

N:Systemwalker Operation Managerのサブシステム番号(1～9の数値、0の場合は省略)

PROJECT：Systemwalker Operation Manager上でのプロジェクト名

JOBNET：Systemwalker Operation Manager上でのジョブネット名

注意

- 同一のSystemwalkerコンソールからSystemwalker Portalを二重起動することはできません。別のサーバを監視したい場合は、既に起動しているSystemwalker Portalを一旦終了し、新たに監視したいサーバのメッセージからSystemwalker Portalを起動してください。
- Systemwalker Operation Managerでは、同じユーザが同一のサーバに二重ログインすることができません。このため、複数のSystemwalker Portalを同時に使用する場合、Systemwalker Operation Managerにログインできないことがあります。この場合、先にログインしているユーザをログアウトしてからログインしてください。

起動手順

以下に、Systemwalker Portalの起動手順を示します。

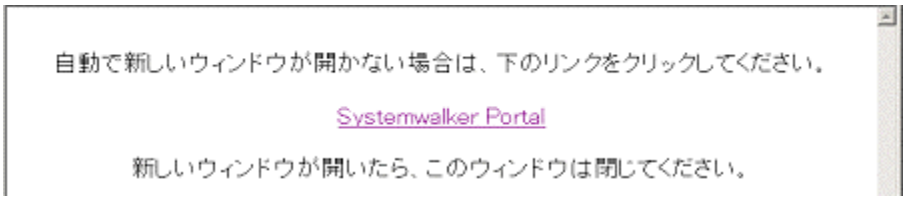
1. Systemwalkerコンソールの監視イベント一覧から該当のイベントを選択し、右クリックします。
   →メニューが表示されます。
2. [連携製品の起動]を選択し、Webブラウザを起動します。

→SystemwalkerPortalのCGIフォルダに対して、基本認証を設定している場合、[ネットワークパスワードの入力]画面が表示されます。

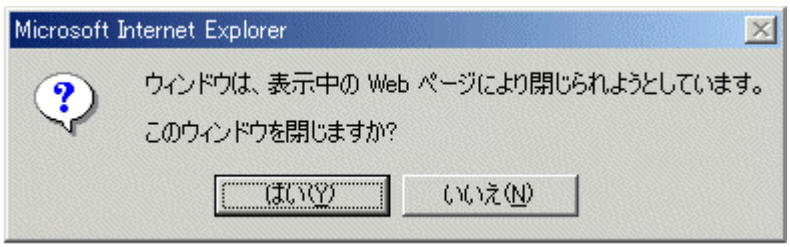
a) ユーザ名とパスワードを入力します。

b) [OK]ボタンを選択します。

→[Systemwalker Centric Manager Link Page]画面が表示されます。



→[Systemwalker Centric Manager Link Page]画面で、以下のメッセージボックスが表示されます。



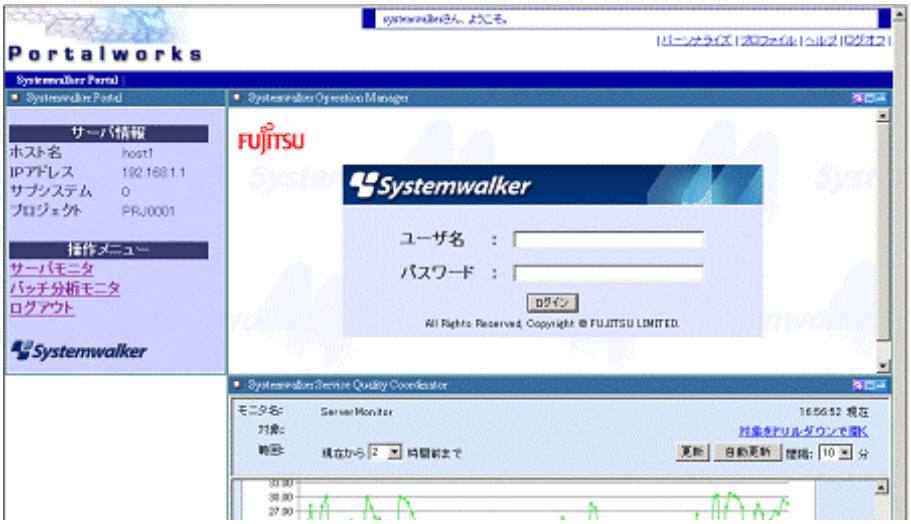
- [Interstage/Portalworks]画面が表示されている場合は、[はい]ボタンを選択します。
- [Interstage/Portalworks]画面が表示されていない場合は、[いいえ]を選択し、[Systemwalker Centric Manager Link Page]画面の[Systemwalker Portal]リンクを選択し、[Interstage/Portalworks]画面を手動で起動します。

  その後、[Systemwalker Centric Manager Link Page]画面を手動で閉じます。

3. Interstage Portalworksのログオン画面で、Systemwalker Portal用の

ログオンID、パスワードを入力し、[OK]ボタンを選択します。

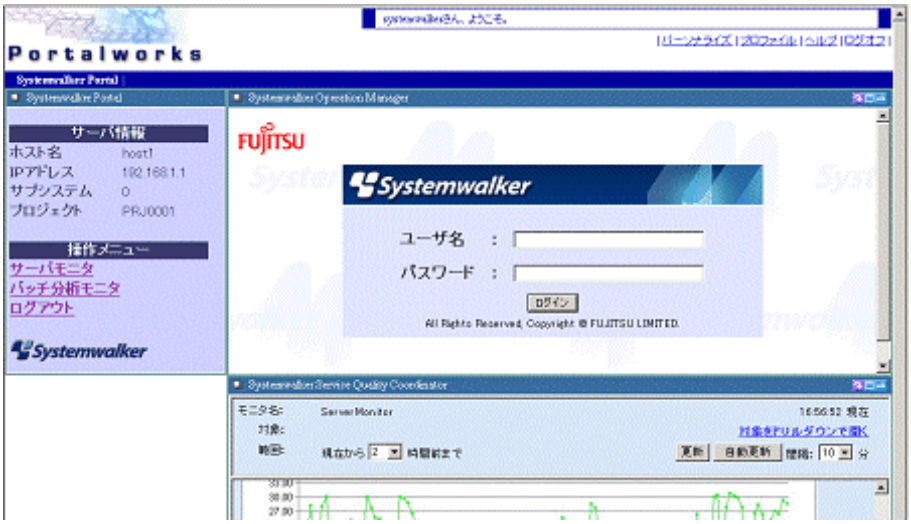
→Systemwalker Portalの画面が表示されます。



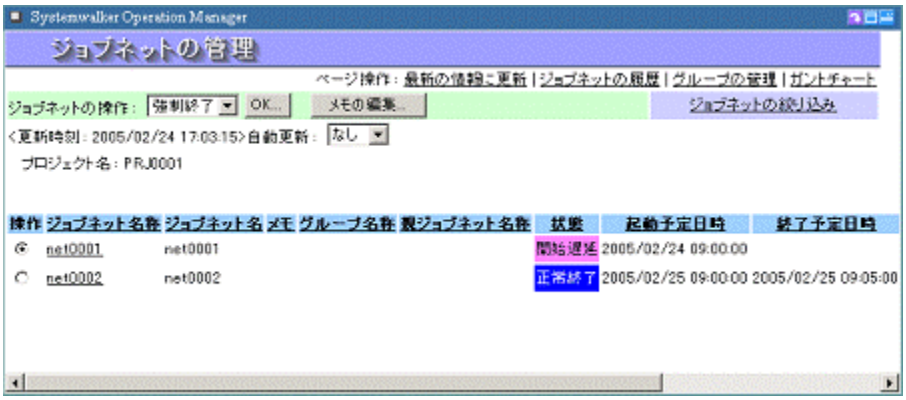
4.3 Systemwalker Portalの使用

使用方法を以下に説明します。

1. Systemwalker Operation Managerのログイン画面にて、Systemwalker Operation Managerのユーザでログインします。

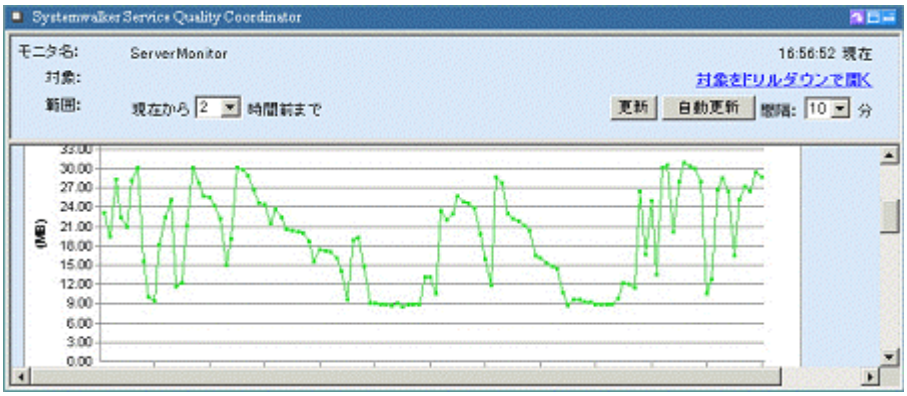


2. Systemwalker Operation Managerの[ジョブネットの管理]画面で、遅延が発生したジョブネットを確認します。



[ジョブネットの管理]の詳細については、“Systemwalker Operation Manager 使用手引書”の“6.1 ジョブネットを監視する”を参照してください。

3. 左ブリックの[操作メニュー]から、[サーバモニタ]または[バッチ分析モニタ]を選択し、システム全体の状況を把握します。
   以下に[サーバモニタ]を選択した場合の画面を示します。



- [サーバモニタ]を選択した場合、[Server Monitor]画面で、サーバの性能情報を確認します。
- [バッチ分析モニタ]を選択した場合、[OperationMgrMonitor]画面で、Systemwalker Operation Managerの性能情報を確認します。

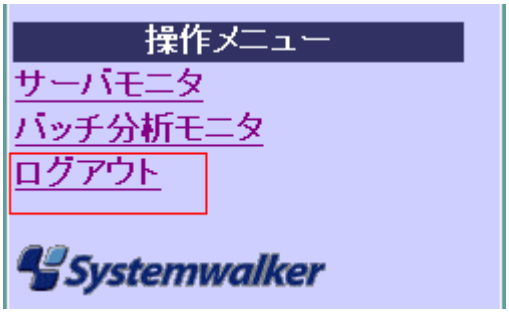
[Server Monitor]および[OperationMgrMonitor]の詳細については、“Systemwalker Service Quality Coordinator ユーザーズガイド”の“7.3.4 モニタの種類”を参照してください。

4.4 Systemwalker Portalの終了

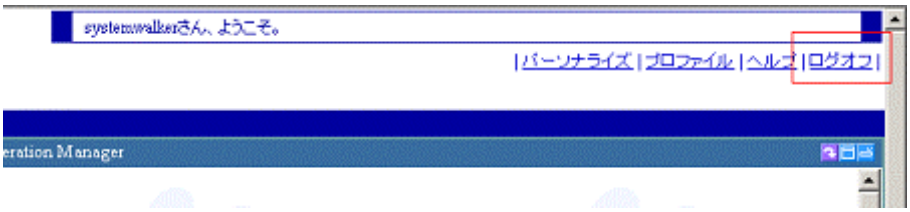
Systemwalker Portalを終了する場合、必ず以下の操作手順で終了してください。

以下に手順を示します。

1. 左ブリックの[操作メニュー]から[ログアウト]を選択します。
   →右上のブリックがSystemwalker Operation Managerのログイン画面に戻ります。



2. 画面右上の[ログオフ]を選択し、Interstage Portalworksをログオフします。



3. ブラウザを閉じます。

注意

Systemwalker Portalでログアウトしないで、Interstage Portalworksをログオフした場合、または直接ブラウザを閉じた場合は、Systemwalker Operation Managerに15分間ログインできなくなります。

この状態になった場合は、15分間待ってからログインするか、別のユーザでSystemwalker Operation Managerにログインしてください。

4.5 セキュリティに関する注意事項

セキュリティに関する注意事項について説明します。

通信のセキュリティ

Systemwalker PortalはWeb標準のHTTPプロトコルを使用しているため、Systemwalker Portal上で入力したIDやパスワード情報が、経路上のネットワークにおいて、平文で送受信されます。

このため、ネットワーク上で悪意ある第三者に通信傍受された場合、重要なデータが漏洩する危険性があります。

Systemwalker Portalの通信データが平文で送受信される経路は、以下の4種類のサーバおよび端末間になります。

- Systemwalker Centric Manager 運用管理クライアント（Systemwalkerコンソール）
- Interstage Portalworks
- Systemwalker Operation Mangerサーバ（業務用サーバ）
- Systemwalker Service Quality Coordinator 運用管理クライアント

この問題のセキュリティ対策として、以下の2つの運用をあわせて実施することを推奨します。

◆ Firewallによるセキュアな運用

Firewallにより、上記4種類のサーバおよび端末を他の社内ネットワークから分離してください。他の社内ネットワークから、これらのサーバ（業務用サーバ等）、および端末と接続する必要がある場合は、Firewallのポリシーで、「接続元IP」「接続先IP」「通信ポート」を指定してください。

◆ セキュアゾーンでの運用

管理者のみが入室できるセキュアゾーンを構築し、上記4種類のサーバおよび端末を設置してください。不特定多数の人が、これらのマシンと同じセグメント上に、無断でPCを設置することがないように管理してください。

Systemwalkerコンソールのセキュリティ

Systemwalker PortalはSystemwalkerコンソール端末からInterstage Portalworks、Systemwalker Operation Mangerサーバ、Systemwalker Service Quality Coordinator 運用管理クライアントを一括で操作可能であるため、悪意ある第三者にSystemwalkerコンソール端末を不正使用された場合、重要情報の漏洩および運用データが改竄される危険性があります。このため、Windows OSの標準機能を利用して、自動でコンピュータのロックもしくはスクリーンセーバーのパスワード保護機能が掛かるように設定し、管理者が一時的に離席した

場合でも、第三者が不正利用できないようにする運用を推奨します。
コンピュータのロックおよびスクリーンセーバーのパスワード保護機能の詳細については、OSのヘルプを参照してください。

また、より堅固なセキュリティ対策として、OSのパスワード、各Webサーバの基本認証および各製品のパスワードは定期的に変更する運用を推奨します。

接続経路のセキュリティ

Systemwalker Portal CGIに対して、短時間に集中アクセスすることで、サービスを遅延もしくは停止させる攻撃を悪意ある第三者から受ける危険性があります。この問題に対処するために、接続経路を制限する運用を推奨します。
具体的には、Interstage HTTP Serverのアクセスコントロール設定で、Systemwalker Centric Manager 運用管理クライアント端末からのみ、Systemwalker Portal CGI (/opt/swptl/cgi-binディレクトリ) へアクセスできるようにしてください。
詳細な設定方法については、“Interstage Application Server セキュリティシステム運用ガイド”の“4.2 IPアクセスコントロール”を参照してください。

4.6 復旧手順

環境が壊れた場合、運用前に作成したバックアップファイルを使用し、環境を復旧します。

Systemwalker Portalについては、“3.2.1 CGIの設定”および“3.3 Interstage Portalworksでの設定”に従ってアクセス権限の再設定およびPortalworksへの再登録を実施します。

その他の製品については、それぞれの製品マニュアルに従って、環境を復旧してください。

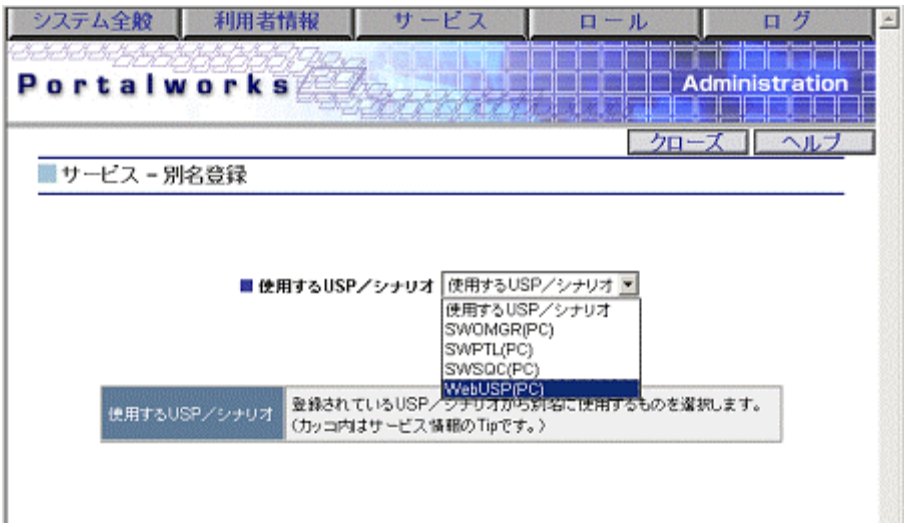
付録A　Webページの追加

Interstage Portalworksの標準機能を使用し、Systemwalker Portalに任意のWebページを簡単に追加することができます。ここでは、Webページを追加する方法を説明します。

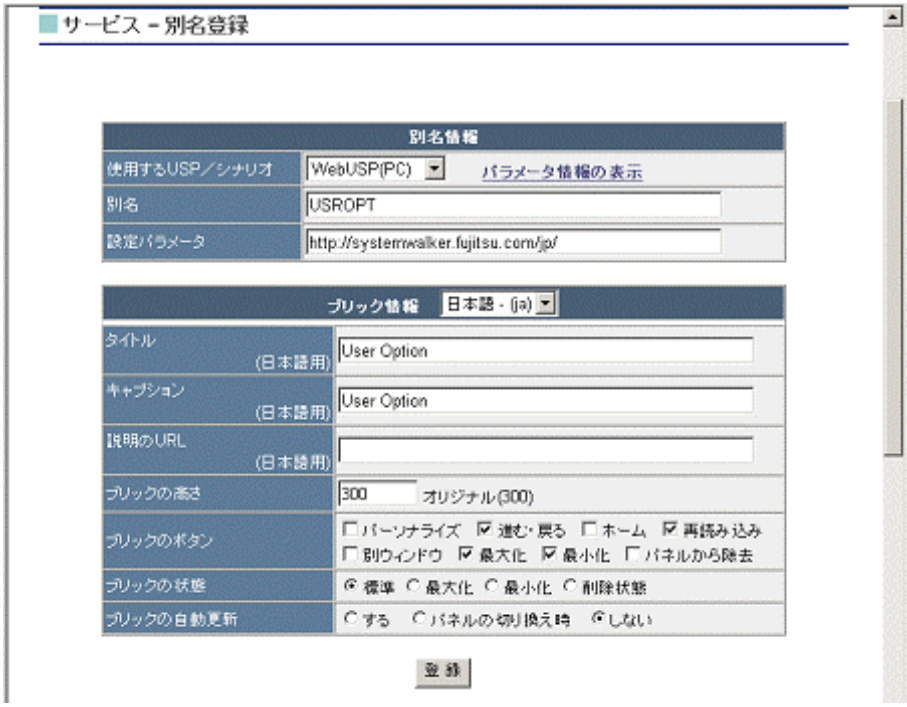
A.1　Interstage Portalworksでの設定

以下にInterstage Portalworksの設定手順を示します。

1. Interstage Portalworksの運用管理コンソールを起動します。
2. [サービス]-[別名登録]を選択します。
   [使用するUSP/シナリオ]のドロップダウンリストから[WebUSP(PC)]を選択してください。
   →サービスの別名登録画面が表示されます。

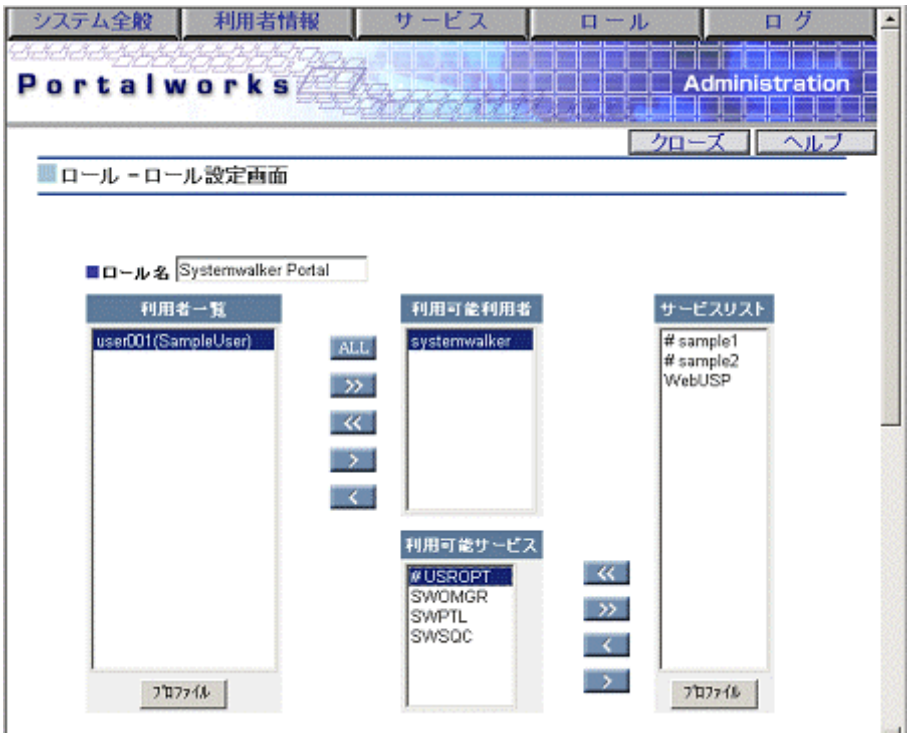


1. 各項目を設定します。
   本書では例として、「USROPT」という別名でSystemwalkerの情報ページ「systemwalker.fujitsu.com/jp/」を追加します。



各設定項目の詳細は、“Interstage Portalworks 管理者ガイド”の“12.1.1 サービスの登録（別名登録）”を参照してください。

2. [登録]ボタンを選択します。
3. [ロール]-[登録/変更/削除]を選択します。
   →ロールの一覧画面が表示されます。
4. [Systemwalker Portal]を選択します。
5. ロール設定画面で、利用可能サービスに[#USROPT]を追加します。

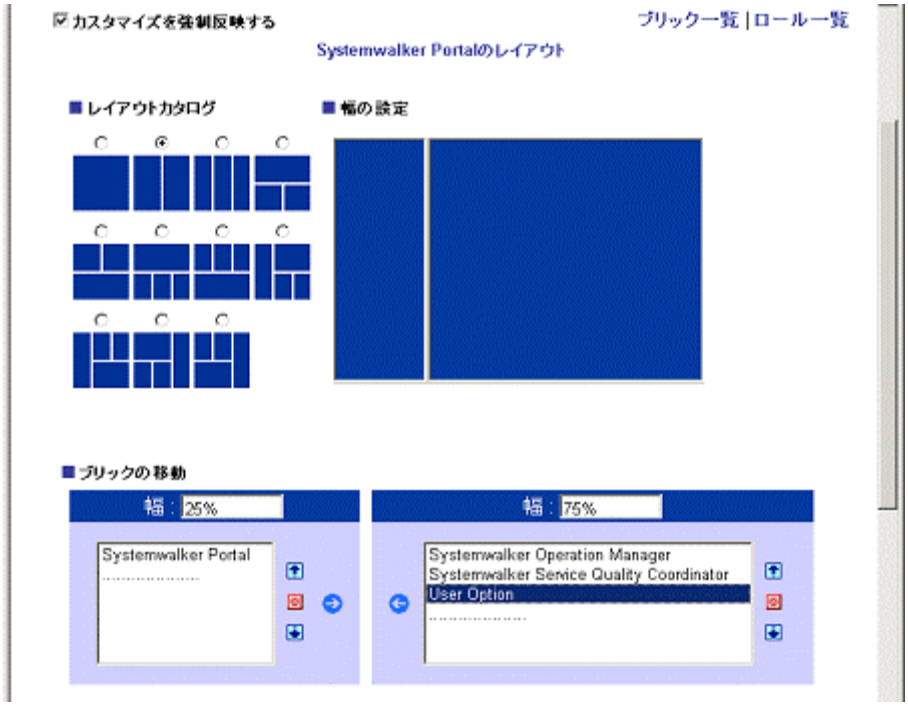


6. ロールを登録し、[ロール]-[登録/変更/削除]のロール一覧の画面に戻ります。[Systemwalker Portal]リンクの左側にあるアイコンをクリックします。

7. [カスタマイズを強制反映する]にチェックを入れます。

8. ブリックの移動を行い、以下のように「User Option」を右側の一番下段に配置します。

幅：25%	幅：75%
Systemwalker Portal	Systemwalker Operation Manager
	Systemwalker Service Quality Coordinator
	User Option



9. [更新]ボタンを選択します。
   Systemwalker Portalを開くと、右側の最下段に追加したページが表示されます。

付録B　エラーメッセージと対処方法

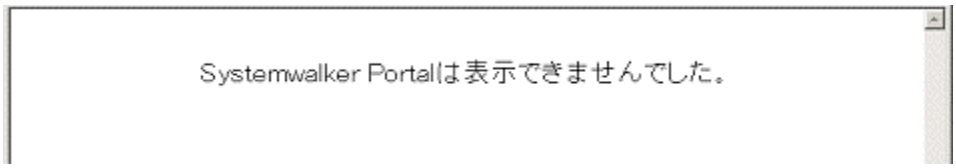
Systemwalker Portal、Systemwalker Operation Manager、およびSystemwalker Service Quality Coordinatorが出力するエラーメッセージについて、原因および対処方法を説明します。

B.1　Systemwalker Portalに関するエラーメッセージ

SystemwalkerコンソールからSystemwalker Portalを起動し、Systemwalker Portalを使用する場合に発生するエラーメッセージと対処方法について説明します。

B.1.1　Systemwalker Portalが起動できない

SystemwalkerコンソールからSystemwalker Portalが起動できない場合の原因と対処を示します。以下にエラー画面を示します。



以下に原因と対処を示します。

原因	対処方法
連携起動の対象外のメッセージに対して、Systemwalker Portalを連携起動した場合に発生する。	“4.1 Systemwalker Portalの起動”に記載しているメッセージ以外ではSystemwalker Portalは利用できません。ご確認ください。
Systemwalker Operation Managerのプロジェクト名かジョブネット名に利用可能文字以外の文字が含まれていた場合に発生する。	“1.4 制限事項”の“プロジェクト名とジョブネット名について”に記載している文字列以外は利用できません。ご確認ください。
導入時の確認テストの際に、Systemwalker Portal CGIをテストモードにしたまま元に戻していない場合に発生する。	“3.5 動作確認作業/初回動作時の設定”の設定でテストモードになっていないかご確認ください。
Systemwalker Portal CGIの設定ファイルomgrport、hostlistの設定に誤りがある場合に発生する。	“3.2.1 CGIの設定”の“ファイル属性を設定する”の権限が付与されているか確認してください。

原因	対処方法
	“3.2.1 CGIの設定”の“設定ファイルを編集する”の“hostlistファイルの編集”での設定を確認してください。hostlistに登録されていないサーバに対してSystemwalker Portalは利用できません。
	“3.2.1 CGIの設定”の“設定ファイルを編集する”の“omgrportファイルの編集”での設定を確認してください。
Systemwalker Portal CGIで排他ロックが掛かっている場合に発生する。(60秒間ロック解除を待ちます)	複数の端末でSystemwalker Portalを使用している場合、タイミングにより排他ロックが掛かる場合があります。この場合、しばらく待ってから再度起動してください。他の端末でSystemwalker Portalを使用していないのに排他ロックされている場合、以下の排他ロックの解除方法で解除してください。

排他ロックの解除方法

Systemwalker Portal CGIの展開先ディレクトリに、ロックファイル（/opt/swptl/conf/swptllock）が存在しないか確認します。

ロックファイルは自動で削除される仕様ですが、何らかの原因で残ってしまった場合、ファイルを削除してください。

ロックファイルが存在すると、Systemwalker Portalの起動時に排他ロックが掛かり、60秒間ロック解除を待ったあとエラーが発生します。

B.1.2 ブラウザのエラー画面が表示される

SystemwalkerコンソールからSystemwalker Portalを連携起動するとブラウザにエラー画面が表示される場合の原因と対処を示します。

エラーメッセージ	原因	対処方法
「このページの表示が認められていません」:HTTPエラー403「アクセス不可」	Systemwalker Portal CGIの設定でディレクトリかファイルのアクセス権限の設定が不十分な場合に発生する。	“3.2.1 CGIの設定”の“ファイル属性を設定する”の権限が付与されているか確認してください。

エラーメッセージ	原因	対処方法
「ページが見つかりません」:HTTP 404「未検出」	Systemwalker Portal CGIの設定でWebサーバへの登録設定が誤っているか、登録後にWebサーバ(Interstage HTTP Server)を再起動していない場合に発生する。	“3.2.1 CGIの設定”の“Webサーバへ登録する”の設定を確認してください。確認後、Webサーバ(Interstage HTTP Server)を再起動してください。
	Systemwalkerコンソールに設定したCGIへのURLが誤っている場合に発生する。	“3.4 Systemwalkerコンソールの設定”の手順5の設定を確認してください。
「ページを表示できません」:サーバーが見つからないか、DNSエラーです。	Systemwalker Portalの導入されたサーバ上でWebサーバ(Interstage HTTP Server)が起動していない場合に発生する。	Webサーバ(Interstage HTTP Server)を起動してください。
	Systemwalker Portal CGIの設定でInterstage Portalworksの URLが誤っている場合に発生する。	“3.2.1 CGIの設定”の“CGIファイルを編集する”の設定を確認してください。
「Internal Server Error」	Systemwalker Portal CGIの設定でCGIファイルの編集が誤っている場合に発生する。	“3.2.1 CGIの設定”の“CGIファイルを編集する”の設定を確認してください。
	Systemwalker Portalが導入されたサーバ上でInterstageのワークユニットPortalServerが起動していない場合に発生する。	ワークユニットPortalServerを起動してください。

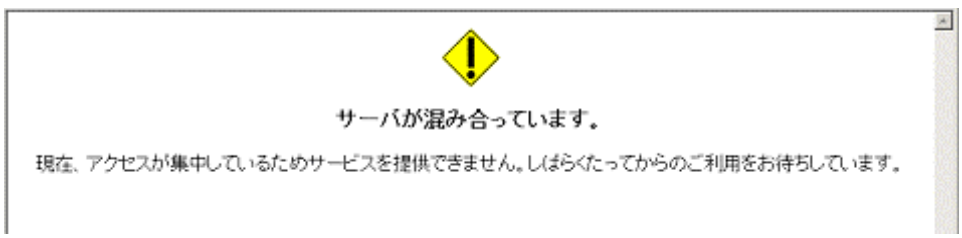
B.1.3 Systemwalker Portalのエラー画面が表示される

Systemwalker Portalの起動時または操作時に、以下のエラー画面が表示される場合の原因と対処について説明します。

- 「サーバが混み合っています。」
- 「セッションが既に切断されています。」

「サーバが混み合っています。」

Systemwalker Portalの起動時に以下のエラーメッセージが表示される場合の原因と対処について説明します。

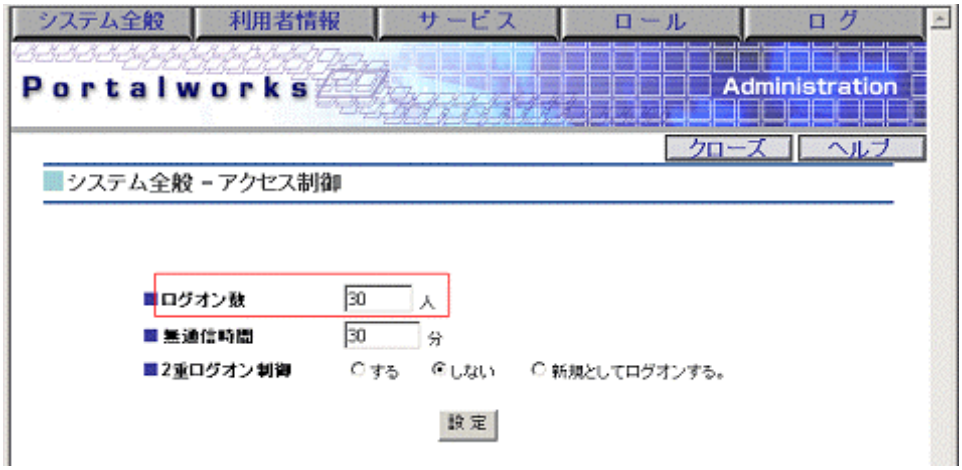


以下に原因と対処を示します。

原因	対処方法
Interstage Portalworksの同時ログオン数の上限に達している場合に発生します。	しばらく待ってから再度ログオンしてください。もしくは、下記に説明するログオン数の上限を変更する方法で、ログオン数の上限を増やしてください。
Systemwalker Portalを終了する際に「ログオフ」を選択せずに終了した場合に発生する。	ログオフせずにSystemwalker Portalを終了した場合、その時点でログオンしていたInterstage Portalworksのユーザはタイムアウト(デフォルト30分)までログオンしているユーザとしてカウントされます。しばらく待ってから再度ログオンしてください。

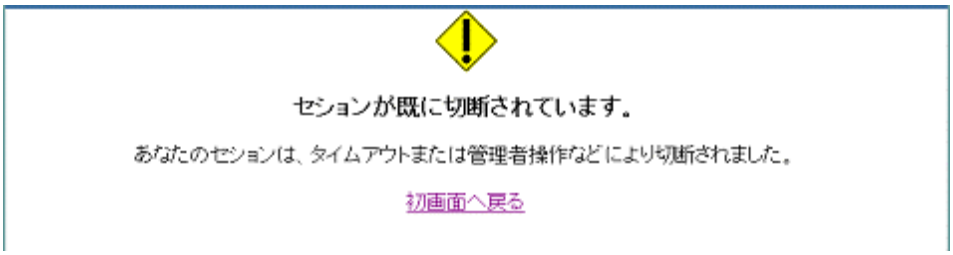
◆ ログオン数の上限を変更する方法

1. Interstage Portalworksの運用管理コンソールで、[システムの全般]-[アクセス制御]を選択します。
2. [ログオン数]を設定します。
   デフォルト値は、10です。



「セッションが既に切断されています。」

Systemwalker Portalの操作時に以下のエラーメッセージが表示される場合の原因と対処について説明します。

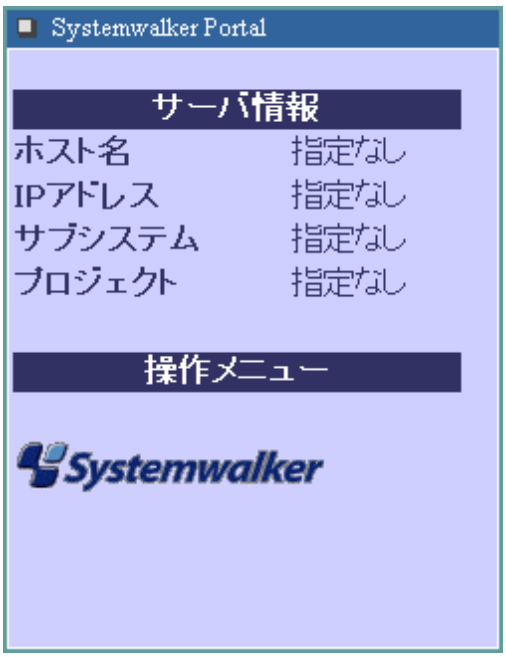


以下に原因と対処を示します。

原因	対処方法
Interstage Portalworksログオン後の無通信時間がタイムアウトに達した場合に発生します。	Systemwalker Portalへ再ログオンしてください。
同一端末で複数のSystemwalker Portalを起動し、同じユーザでログオンしている状態で、どちらか一方をログオフした場合に発生する。	同一のSystemwalkerコンソールからSystemwalker Portalを使用して同時に監視できるサーバは1台のみです。 Systemwalker Portalへ再ログオンしてください。

B.1.4 サーバ情報に「指定なし」と表示される

Systemwalker Portalで、サーバ情報が「指定なし」と表示される場合の原因と対処について説明します。以下にエラー発生時の画面を示します。



以下に原因と対処を示します。

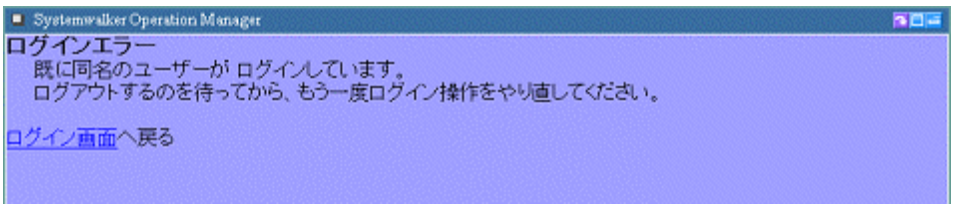
原因	対処方法
シナリオSWPTL/SWOMGR/SWSQCの編集で、誤ったパスを指定した場合に発生する。	“3.2.2 シナリオの設定”の“シナリオを編集する”での設定を確認してください。
Systemwalker Portal CGIの設定ファイルswptldataの設定に誤りがある場合に発生する。	“3.2.1 CGIの設定”の“ファイル属性を設定する”の権限が付与されているか確認してください。

B.2 Systemwalker Operation Managerに関するエラーメッセージ

Systemwalker PortalからSystemwalker Operation Managerを使用する場合に発生するエラーメッセージと対処方法について説明します。

B.2.1 ログインできない

Systemwalker Operation Managerにログインできない場合の原因と対処について説明します。以下にエラー画面を示します。



以下に原因と対処を示します。

原因	対処方法
Systemwalker Portalを終了する際に「ログアウト」を選択せずに終了した場合に発生する。	ログアウトせずにSystemwalker Portalを終了した場合、その時点でログインしていたSystemwalker Operation Managerのユーザは15分間再ログインできなくなります。15分待つか、別のユーザでログインしてください。 また、“4.3 Systemwalker Portalの終了”の手順で必ず終了してください。
他の端末からSystemwalker Portalを起動して、既に対象のSystemwalker Operation Managerに同じユーザIDでログインしていた場合に発生する。	他の端末で対象ユーザがログアウトするのを待つか、別のユーザでログインしてください。

B.2.2 ログアウトできない

Systemwalker Operation Managerからログアウトしても、自動で再ログインされてしまう場合の原因と対処について説明します。

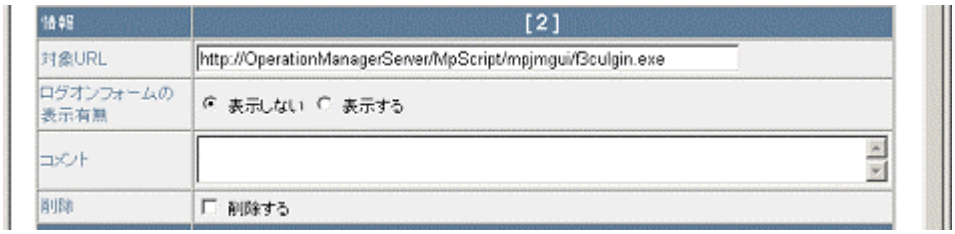
原因	対処方法
Interstage Portalworksの代理ログオン機能が有効になっているために発生する。	下記、代理ログオンの解除方法を説明します。

代理ログオンの解除方法

1. 代理ログオンを解除するには、Systemwalker Portalにログオンした状態で、画面右上のメニューから[プロファイル]を選択します。
   →[利用者情報編集]画面が表示されます
2. 画面下に出ている[代理ログオン情報編集]ボタンを選択します。
   →代理ログオン情報のリストが表示されます。
3. リストから、以下のURLのデータを探し、[表示しない]を[表示する]に変更し、[変更]ボタンを選択します。

```
http://OperationManagerServer/MpScript/mpjmgui/f3culgin.exe
```

*OperationManagerServer*は該当のSystemwalker Operation ManagerのサーバIPアドレスに読み替えてください。



B.2.3 コネクト要求が拒否される

Systemwalker Operation Managerで、以下のエラーメッセージが表示された場合の原因と対処について説明します。

以下に原因と対処を示します。

原因	対処方法
Systemwalker Portal CGIの設定ファイルomgrportの設定に誤りがある場合に発生する。	“3.2.1 CGIの設定”の“設定ファイルを編集する”の“omgrportファイルの編集”での設定を確認してください。
Systemwalker Operation Managerの導入されたサーバ上で監視対象のサブシステムが起動していない場合に発生する。 ※サブシステムを使用している場合。	サブシステムを起動してください。サブシステムの起動方法については、“Systemwalker Operation Manager 使用手引書”の“1.1.2 Systemwalker Operation Managerサーバの起動【UNIX】”で、“複数サブシステムの手動での起動方法”を参照してください。

B.2.4 画面が表示できない

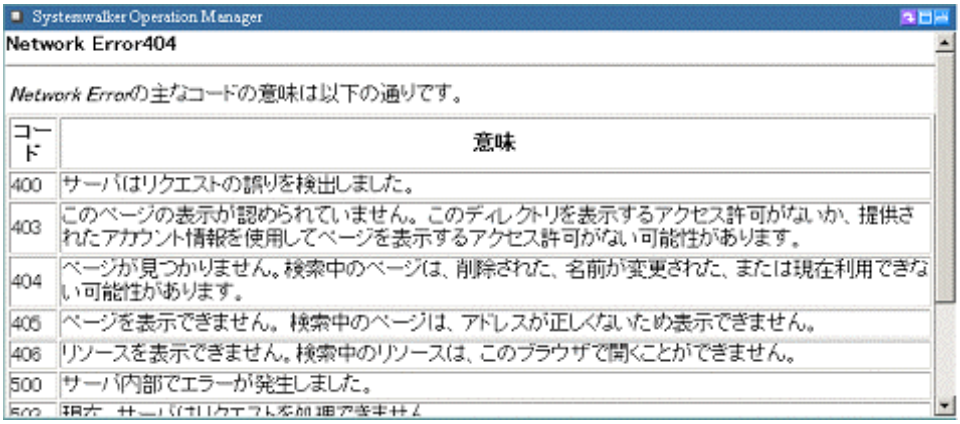
Systemwalker Operation Managerの画面が表示されない場合の原因と対処について説明します。以下にエラー画面を示します。

以下に原因と対処を示します。

原因	対処方法
Systemwalker Portalのサーバ情報に「指定なし」の項目がある場合に発生する。	“B.1.4 サーバ情報に「指定なし」と表示される”の対処を確認してください。
シナリオSWOMGRの編集で、誤ったパスを指定した場合に発生する。	“3.2.2 シナリオの設定”の“シナリオを編集する”での設定を確認してください。

B.2.5 Network Errorが表示される

Systemwalker Operation Managerの画面で、Network Errorが表示される場合の原因と対処について説明します。以下にエラー画面を示します。



以下に原因と対処を示します。

エラーメッセージ	原因	対処方法
Network Error403	Systemwalker Operation ManagerのWebコンソールの設定でディレクトリかファイルのアクセス権限の設定が不十分な場合に発生する。	「Systemwalker Operation Manager 導入手引書」の「2.12 Webブラウザから使用する場合の定義」を確認してください。
Network Error404	Systemwalker Operation ManagerのWebコンソールの設定でWebサーバへの登録設定が誤っているか、登録後にWebサーバ(Interstage HTTP Server)を再起動していない場合に発生する。	「Systemwalker Operation Manager 導入手引書」の「2.12 Webブラウザから使用する場合の定義」を確認してください。確認後、Systemwalker Operation ManagerのWebサーバを再起動してください。
	シナリオSWOMGRの編集で、誤ったパスを指定した場合に発生する。	“3.2.2 シナリオの設定”の“シナリオを編集する”での設定を確認してください。
Network Error：－1	Systemwalker Operation Managerの導入されたサーバ上でWebサーバが起動していない場合に発生する。	Webサーバを起動してください。

B.3 Systemwalker Service Quality Coordinatorに関するエラーメッセージ

Systemwalker PortalからSystemwalker Service Quality Coordinatorを使用する場合に発生するエラーメッセージと対処方法について説明します。

B.3.1 画面が表示できない

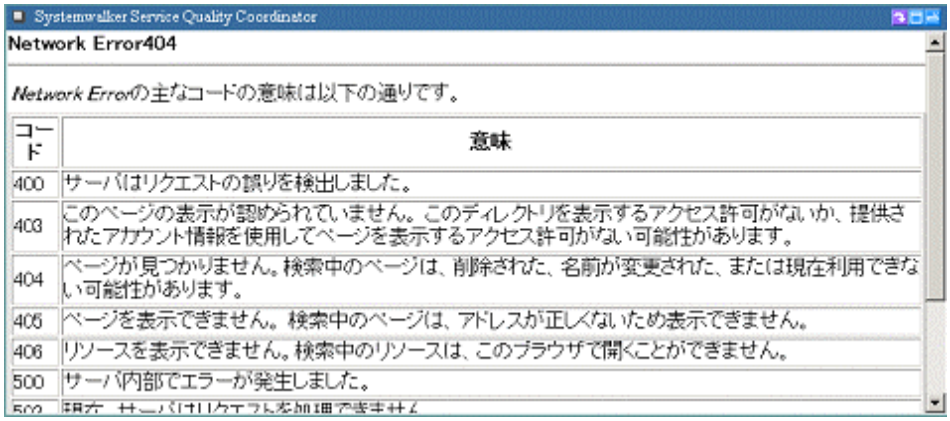
Systemwalker Service Quality Coordinatorの画面が表示されない場合の原因と対処について説明します。以下にエラー画面を示します。

以下に原因と対処を示します。

原因	対処方法
Systemwalker Portalのサーバ情報でホスト名が「指定なし」の場合に表示される。	“B.1.4 サーバ情報に「指定なし」と表示される”の対処を確認してください。
シナリオSWSQCの編集で、誤ったパスかIPアドレスを指定した場合に発生する。	“3.2.2 シナリオの設定”の“シナリオを編集する”での設定を確認してください。

B.3.2 Network Errorが表示される

Systemwalker Service Quality Coordinatorの画面で、Network Errorが表示される場合の原因と対処について説明します。以下にエラー画面を示します。


Systemwalker Service Quality Coordinator

Network Error404

*Network Error*の主なコードの意味は以下の通りです。

コード	意味
400	サーバはリクエストの誤りを検出しました。
403	このページの表示が認められていません。このディレクトリを表示するアクセス許可がないか、提供されたアカウント情報を使用してページを表示するアクセス許可がない可能性があります。
404	ページが見つかりません。検索中のページは、削除された、名前が変更された、または現在利用できない可能性があります。
405	ページを表示できません。検索中のページは、アドレスが正しくないため表示できません。
406	リソースを表示できません。検索中のリソースは、このブラウザで開くことができません。
500	サーバ内部でエラーが発生しました。
502	現在、サーバは以下エラーを処理できません。

以下に原因と対処を示します。

エラーメッセージ	原因	対処方法
Network Error403	Systemwalker Service Quality CoordinatorのWebコンソールの設定でディレクトリかファイルのアクセス権限の設定が不十分な場合に発生する。	“Systemwalker Service Quality Coordinator ユーザーズガイド”の“20.2 仮想ディレクトリの設定方法”を確認してください。
Network Error404	Systemwalker Service Quality CoordinatorのWebコンソールの設定でWebサーバへの登録設定が誤っている場合に発生する。	“Systemwalker Service Quality Coordinator ユーザーズガイド”の“20.2 仮想ディレクトリの設定方法”を確認してください。
	シナリオSWSQCの編集で、誤ったパスを指定した場合に発生する。	“3.2.2 シナリオの設定”の“シナリオを編集する”での設定を確認してください。
Network Error：-1	Systemwalker Service Quality Coordinator運用管理クライアントの導入されたサーバ上でWebサーバ(Internet Information Server)が起動していない場合に発生する。	Web サーバ (Internet Information Server)を起動してください。